

公益社団法人

日本造園学会関東支部

第17回学生デザインワークショップ

SUMMER

「郊外2.0」

森林文化都市・飯能の  
新たな暮らしを提案し、

山・川・街の結び目をつくる

REPORT

2021<sup>9/4-19</sup>

STUDIO 2021

# 開催概要

## 開催趣旨

新型コロナウイルスの影響により、東京都心から離れた郊外の街が注目されています。移住、二拠点居住、マイクロツーリズム（観光）、そして半農ライフなど、これは今年の舞台となる飯能市で見られる新たなニーズと人の動きです。飯能市は、「森林文化都市宣言」を掲げるように、江戸時代から林業により発展した歴史・文化が豊かな街です。現在でも中心市街地と森林が近接し、街はウォーカブルな心地よいスケール感でまとまっています。近年は、シェアアトリエやシェアオフィスなど若者や来街者が集まる場所の実践が行われ、新たなまちづくりの種が散りばめられた可能性豊かな街です。

しかし、他の地方自治体と同様に、少子高齢化や苦しい財政状況、公共施設の老朽化などの社会課題を抱えています。街の重要な産業となる観光は、登山と山間部の郊外型レジャー施設の二極化が進み、市街地を訪れる観光客は多くありません。さらに、飯能河原は夏場の偏ったレジャー利用が課題となっており、「川」により「山」と「街」が分断されてしまっているように感じられます。今後は、これらの豊かな環境資源を活かし、現代の社会変化に対応した街づくりが求められています。

そこで、2021年のサマスタは、河岸段丘上に位置し、立地環境や歴史文化的な側面において街の中心と感じられる「飯能河原から天覧山までの地域」を提案対象地とします。敷地内に点在する老朽化した公共施設の再整備と、新たなニーズや社会変化に応える公共施設の再編をきっかけとして、山・川・街の結び目となる街の新たな拠点を模索し、今後50年を見据えた、森林文化都市・飯能の新たな暮らし「郊外2.0」を提案します。

## スケジュール

### ■キックオフミーティング 9/4（土）@ZOOM

#### ガイダンス

課題説明・自己紹介・スケジュール説明

#### 提案敷地に関する話題提供

山岸絵理子 飯能市 観光・エコツーリズム推進課

小川敦史 飯能市 企画調整課

「飯能河原～天覧山エリアのまちづくりについて」

石野剛史 埼玉県 県土整備部 河川環境課

「飯能河原で進むSDGs 官民連携に係る河川取組」

赤井恒平 AKAI Factory 代表 / 株式会社 Akinai 代表

「グランレベルのまちづくり」

#### ゲストより話題提供

田嶋豊 ランドスケープデザイン（ランドスケープ）

「100年のタイムスパンから50年後の飯能を考える」

崎谷浩一郎 EAU（土木）

「混ぜる」

檜村実実 TERRAIN architects / 東京藝術大学 准教授（建築）

「小さな庭、大きな風景」

#### トークセッション

学生からゲストへの質問・参加者全員による課題に対するプレスト

### ■プレサースペイ 9/5（日）～9/10（金）

#### チューターレクチャー

9/7（火）・9/9（木）@ZOOM

提案敷地や課題に対する基礎情報や話題の提供

### ■ワークショップ 9/11（土）～9/12（日）

9/18（土）～9/19（日）

#### Day1 9/11（土）

サーベイ結果発表・コンセプトの方向性確認

@ 飯能市民活動センター+ZOOM

#### Day2 9/12（日）

コンセプト・サイトプランの確認

@ 各チューターの事務所+ZOOM(Day2~3)

#### Day3 9/18（土）

最終発表に向けたラフプラン・プレゼン資料の確認

#### Day4 9/19（日）

最終発表・クリティーク

@ 飯能市民活動センター+各チューターの事務所+ZOOM

審査員：キックオフミーティングで話題提供いただいた7名

### ■まとめ本編集 10月～12月

# 目次

## 概要

開催概要・目次

P1

対象地～飯能河原から天覧山までの地域～

P3

提案導入

P5

## 各チーム提案

IAチーム

P7

IBチーム

P11

ICチーム

P15

IDチーム

P19

IEチーム

P23

IFチーム

P27

## ゲスト総評

P31

## ゲストインタビュー

P35

## 活動記録

飯能の魅力

P43

学生アンケート

P45

チューターコメント

P47

スケジュール

P49

参加者

P51

ご協賛・ご後援企業

P53

Vectorworks

P55

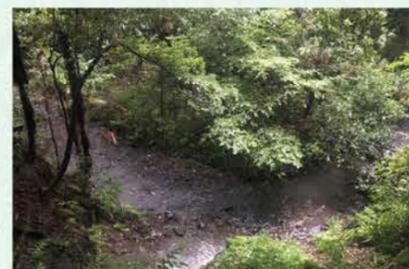
まとめ本編集委員会編集後記

P57

# 対象地 ～飯能河原から 天覧山までの地域～

## 今回の舞台は…

対象敷地である天覧山から中央公園にかけての一带は、古くは林学者・本多静六による『飯能遊覧地設計』で整備された観光地でした。現在の対象地付近は、市民会館、博物館、公民館と言った飯能の文化施設が立地する一方で、飯能の一大観光地である飯能河原を含め、住宅街の中にも豊かな緑が残される、自然環境豊かな地域となっています。



谷筋に残る自然



点在する林業・製材業の風景



緑の多い住宅街

**①天覧山**  
展望台からは中央公園一帯・飯能市街地・遠く東京の高層ビル群まで見渡せる。



0 500 m

対象地



**⑥飯能市立図書館**  
老朽化する公共施設再編の一環として2013年に開業。地元の西川材を用いた温かみのある図書館。



**②中央公園と市民会館**  
中央公園には芝生広場が広がる。桜の開花に合わせて催される春祭りには地元のファミリー層を中心に多くの人々が訪れる。

**⑤中央公民館**  
飯能河原を見下ろす位置に立つ。ピロティは市街地から飯能河原へのゲートのよう。



**③飯能市立博物館**  
飯能の町の成り立ち、自然環境、林業などの産業についての展示が充実。

**④飯能河原**  
夏場には若者を中心とした観光客に人気。器材等は周辺店舗で借りることもでき、気軽にバーベキューを楽しむことができる。



概要

## 【 講評者 】



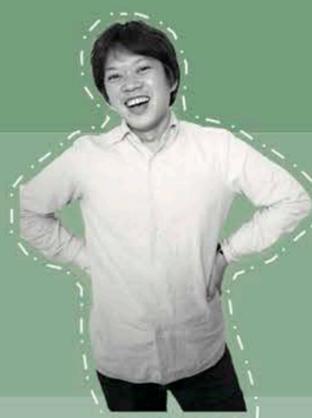
田嶋 豊  
(株) ランドスケープデザイン

櫻村 茉実  
TERRAIN architects  
東京藝術大学 准教授



崎谷 浩一郎  
EAU

赤井 恒平  
AKAI Factory 代表  
株式会社 Akinai 代表



小川 敦史  
飯能市 企画調整課

山岸 絵理子  
飯能市  
観光・エコツーリズム推進課



石野 剛史  
埼玉県  
県土整備部 河川環境課

阿部 伸太  
日本造園学会 関東支部長  
東京農業大学地域環境科学部  
造園学科 准教授



# 各班の提案

2021年度のサマースタジオでは、全30名の学生がA～Fの6グループにわかれ、プレサビーと一週間のワークショップ期間をかけて各々の飯能の姿を提案しました。C班・D班のように、飯能の林業に着目した提案や、風景や眺望に着目したB班・E班、また、飯能の土木をテーマとしたA班、資源を介した助け合いという観点から提案したF班、各班のそれぞれの特徴が出たサマスタとなりました。



## A

### はんのうする土木

# 土木 # 地形



## B

### 飯能の風景を育てる

# 風景 # 生業 # 里地里山



## C

### つみきば VISION 2070

# 西川材 # 木材生産・貯木



## D

### SHIN・RIN・TOWN 飯能

# 副業林業 # 飯能多拠点暮らし



## E

### やますそからはじまる

# 山への眺望 # 単線化



## F

### 助け合いのむすびめ

～いどばた・やまぎわから始まる豊かでしなやかな暮らし～  
# 助け合い # 自立する郊外

提案

## はんのうする 土木

#土木 #地形



↑尾石 光  
千葉大学大学院  
環境園芸学専攻 M2



萩原 隆太  
法政大学大学院  
都市環境デザイン工学専攻 M1



陳 楽  
千葉大学  
創成工学専攻 M1



↑三浦 樹  
東京農業大学  
造園科学科 B4



河地 美佳  
工学院大学  
建築デザイン学科 B3



富士原 宏将  
株式会社 プレイスメディア



坂本 幹生  
株式会社 ランドスケープ・  
プラス



杉山 茂樹  
株式会社 日建設計



## はんのうする土木

地形に反応する飯能の土木計画

土地の自然環境と一体となって1000年を経ても残り  
飯能の新たな原風景として大地に刻み込まれていく



緩やかに地形を崩していくのがいいなあ。  
全部を崩さずに、急にシーンが変わるところ  
を残すのも魅力的だと思う。

櫻村 菜実さん



対象地の様子が詳しく調べられている  
と思う。

田嶋 豊さん



現状の飯能の地形を上手く捉えられて  
いる。

崎谷 浩一郎さん

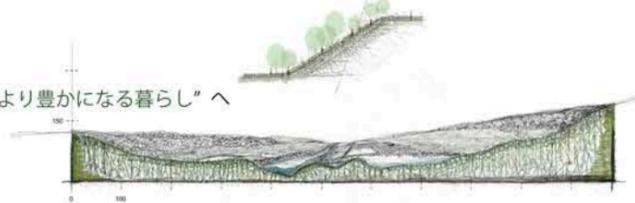


たまに飯能にやってくる人も巻き込んで  
いけるような提案だと思う。

# CONCEPT 飯能の“地形”と“住民の力を引き出す土木と持続可能な維持管理システム

## 郊外 2.0 飯能の新しい暮らしとは？

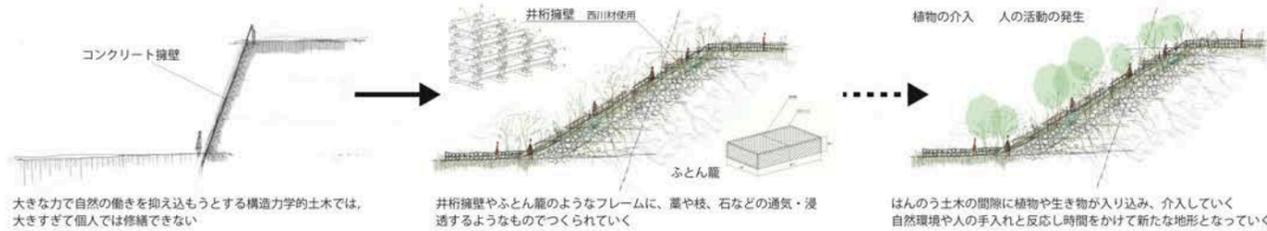
“行政がインフラを整備し豊かになる暮らし” から  
 “市民が、郊外の地形と植生を生かして、積極的にインフラに関わることでより豊かになる暮らし” へ



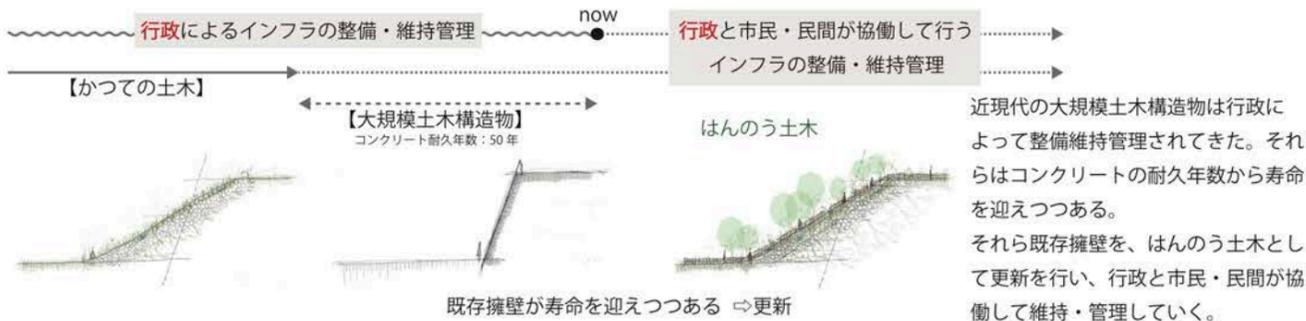
## DESIGN はんのう土木 人や植物の介入を許容し土中環境を重視した土木

### ●はんのう土木

かつて自然の動きを大きな力で抑え込もうとつくられた、既存のコンクリート擁壁を、人、生き物の活動、植物の介入を許容し、土中環境を重視した土木（はんのう土木）につくり替えていく。



### ●行政による整備、維持管理から 行政、市民・民間の協働へ



### ●はんのう土木に関わる人たちと制度

**人** 整備更新は、行政・市民や民間団体・地元企業が連携して行い、維持管理も同様のメンバーで行われ、新住民や新企業を加えながら（はんのう土木）を成長させていく。住民と一体となって土木を段階的に更新していくことで、自然の力を上手く働かせコスト低く持続していく新たな更新の方法となり得る。

**制度** はんのう土木里親制度 行政が地域住民や民間企業と維持管理協定を結ぶ。行政から道具や資材を提供・支援し、地域住民は「はんのう土木」の利活用、維持管理を行う



#### はんのう土木に関わる人たち



はんのう土木というネーミングがとても良いね。



インフラと個人との関わりを生み出せている点が良い。



50年後に道路が減っていくと、新たなオープンスペースが生まれてくるのでは？

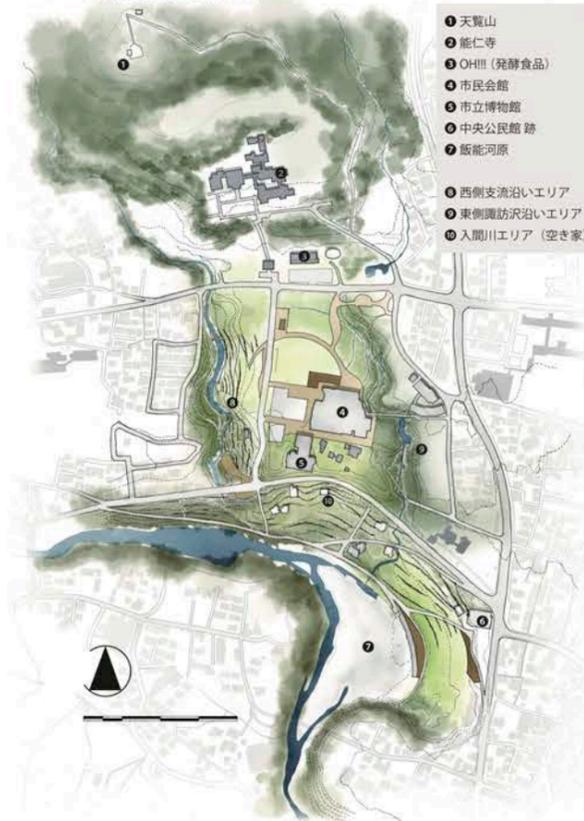


土木インフラによってどういった価値が生まれるのかを考えられると更に良かった。



# VISION 飯能の新たな原風景として大地に刻み込まれていく

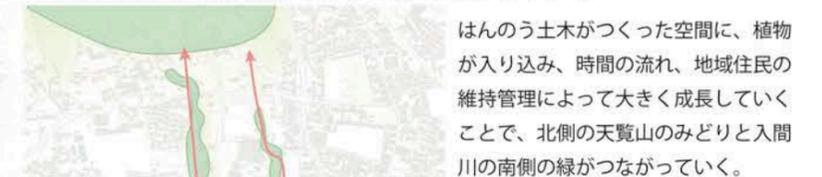
## ●MASTER PLAN



## ●はんのう土木による地形のデザイン



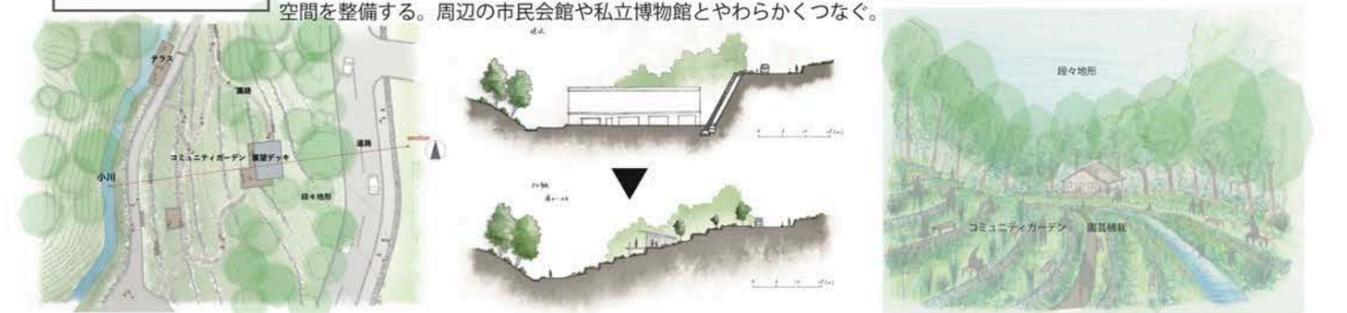
## ●はんのう土木によってみどりがつながっていく



## ●はんのう土木によってつくられる新たな場

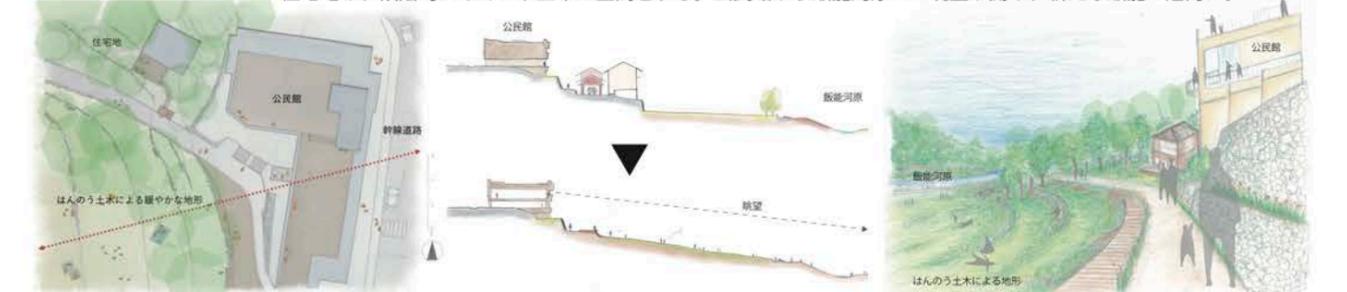
### 西側支流エリア

コンクリートによる擁壁をはんのう土木によって崩し、河原の水辺空間を広げることで市民が活用しやすいスケールの空間を整備する。周辺の市民会館や私立博物館とやわらかくつなぐ。



### 公民館と飯能河原

公民館はコミュニティ活動の場となっていることを尊重し、できる限り寿命を伸ばしながら活用する。住宅地は、段階的にはんのう土木の空間とする。公民館から飯能河原への眺望が開け、新たな飯能の魅力に。



# B 飯能の風景を育てる

#風景 #生業  
#里地里山



↑ 長谷川 ゆい  
武蔵野美術大学  
建築コース M1



↑ 山本 祐子  
千葉大学  
園芸学研究科 M1



↑ 霜田 孝太郎  
東海大学  
文学研究科観光学専攻 M1



↑ 前川 桃香  
東京農業大学  
地域環境科学部造園科 B4



↑ 塩澤 敬祐  
茨城大学  
農学部 B3



↑ 小林 祐太  
フリーランス



↑ 渡部 美香  
株式会社三菱地所設計

## 飯能の風景を育てる



**「私たちは自分ごととして風景を捉えているだろうか」**

風景とはひとが一方的に受け取るものなのだろうか  
私たちは、山・川・まちと人との関係の中で風景は生まれてくるものだと考える。

林業によって生まれたかつての飯能の風景は林業の衰退とともになくなり、現在の飯能市では植林放棄地やオーバーツーリズムなどの課題を抱えている。  
これは自分事として風景を捉えなくなったために分化した問題ではないだろうか。  
各々がその街の風景を自分ごととして捉え、愛着を持ち、誇りを持つことができる飯能市にはどのような風景が広がっていくのだろうか。

郊外 2.0 として「自分ごととして捉える風景がある暮らし」に向けて、飯能市にある山・川・まちを対象に、風景を育てていく仕組みと場を提案する。

都市計画的な視点も盛り込まれていて面白い。  
崎谷 浩一郎さん

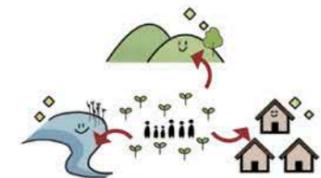
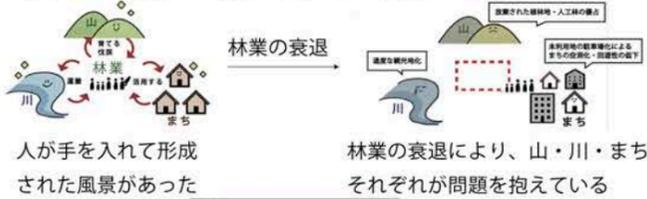
葦原が飯能の風景と合っているかどうかは気になるポイントだと思った。  
田嶋 豊さん

苗床広場が苗床でもあるけど、広場として広い空間を何にでも使えるという風に残しているという在り方が良いなと思う。  
櫻村 茉実さん

提案のような街中のパブリックスペースは非常に重要。そこを活用する人たちが管理維持できるようなコミュニティができればとてもいいと思う。  
赤井 恒平さん

## 提案の背景と目的

飯能における風景への意識の変化によって分化した課題



設計対象地：  
天覧山前の市民会館前広場、  
飯能河原、街中の駐車場

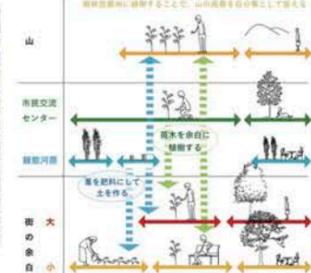
飯能市にもとある環境である山・川を生かし、  
飯能市の風景を育てていく仕組みとその場を提案する。

## 提案の仕組み

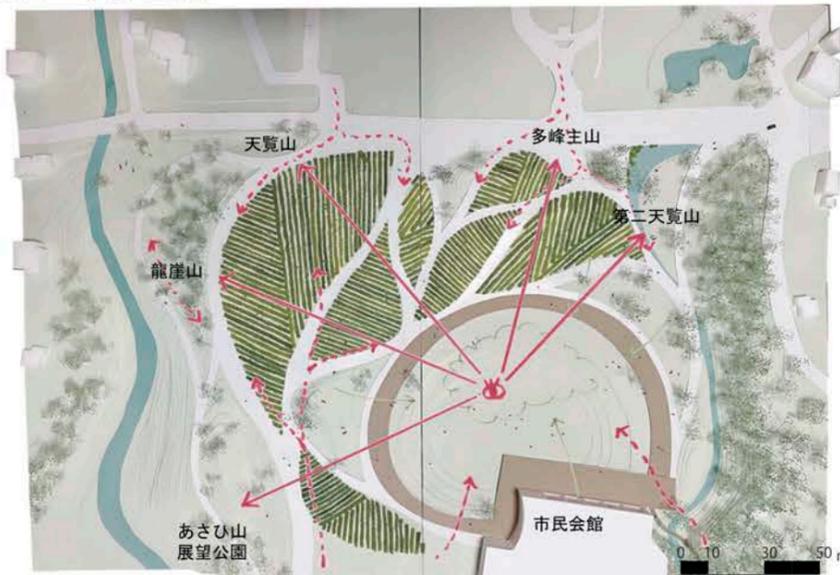
天覧山前の市民会館前広場が風景を自分ごととして捉えるための拠点となる。

市民会館の敷地を苗木を育てる苗床広場として提案し、生産された苗木を放棄地となっている山々や街なかの風景を見るための視点場へ住民自身が移植していく。そのような自分の場所としての証を残すような行為がその風景を自分事として捉えることにつながっていく。

苗木を生産するために必要な肥料を飯能河原で生産し、それらのつながりの中で人の居場所などを生み出す場が飯能に広がっていく。



## 設計：苗床広場



苗床広場は人々が飯能に広がる風景を育てていくための場となる。

苗床広場で育てた苗木を放棄された山々に植樹し、背後の山の彩りが戻っていくプログラムによって、彩りが戻った山と広場の丘の色が季節の移り変わりによって同じように変化することに気づく中で風景を作ったという実感が、自分のものとして風景をとらえるきっかけになる。

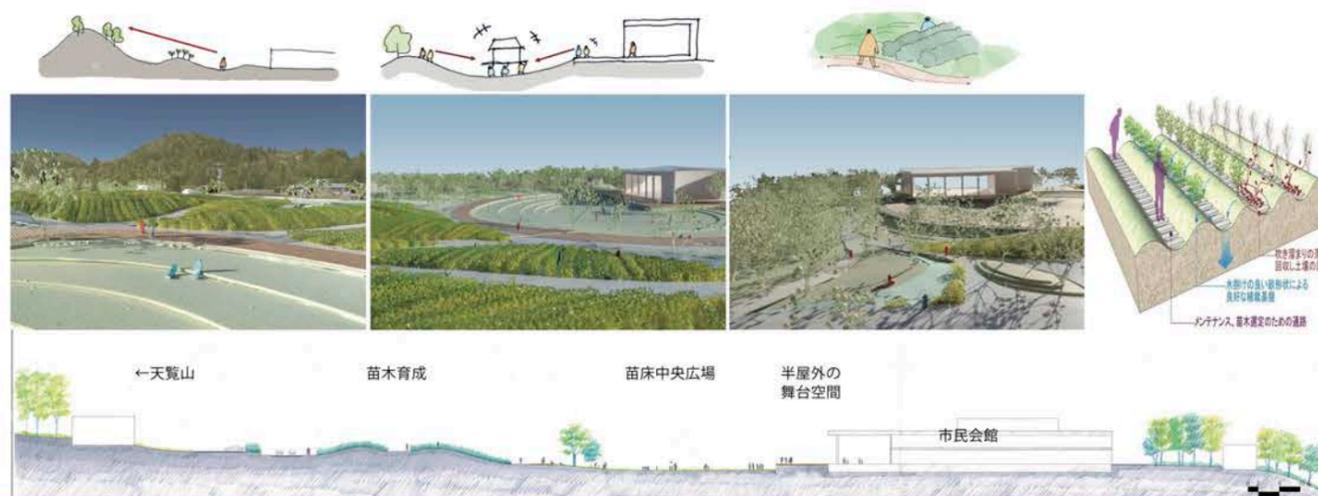
山に囲まれて育った飯能市民が、苗床広場でふと遠くの山に視線を移し過去に自分が植えた樹木を思い出す。風景を作る場であるとともにその風景を眺め、感じられる場として飯能市民の暮らしの一部になっていく。

くぼ地と丘で風景がつながる

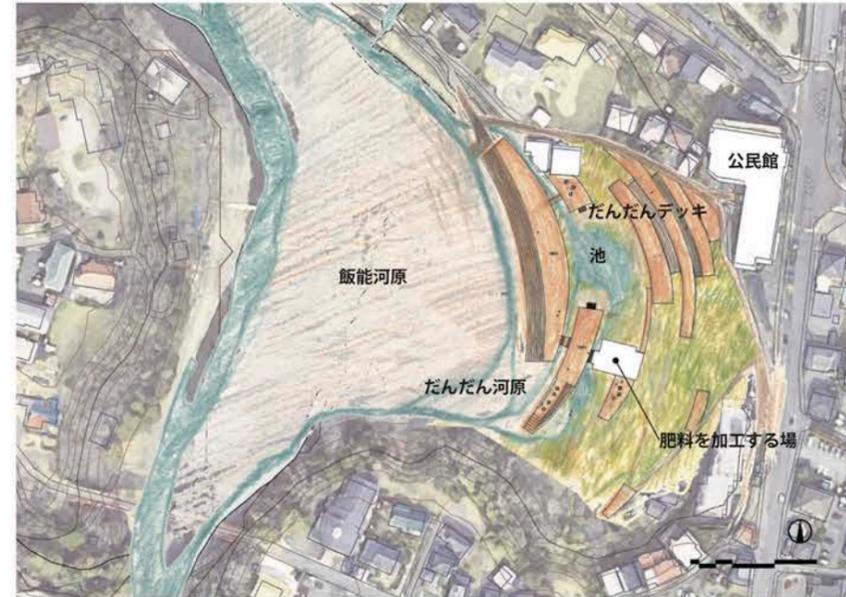
すり鉢状の広場に集まる賑わい

入りこむ動線

畝状に植えられた苗

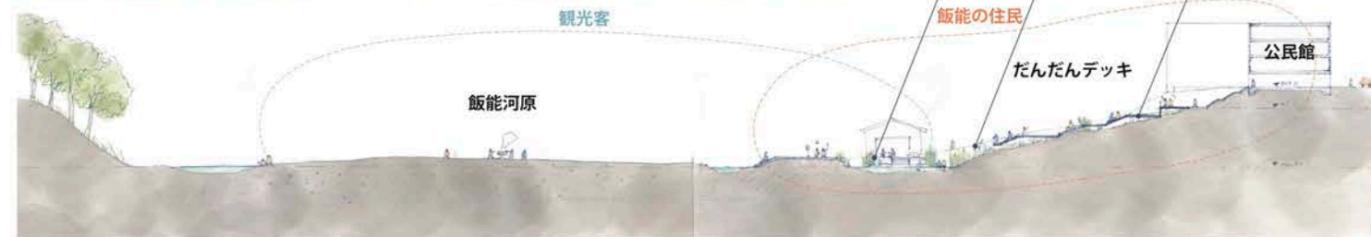


## 設計：だんだん河原



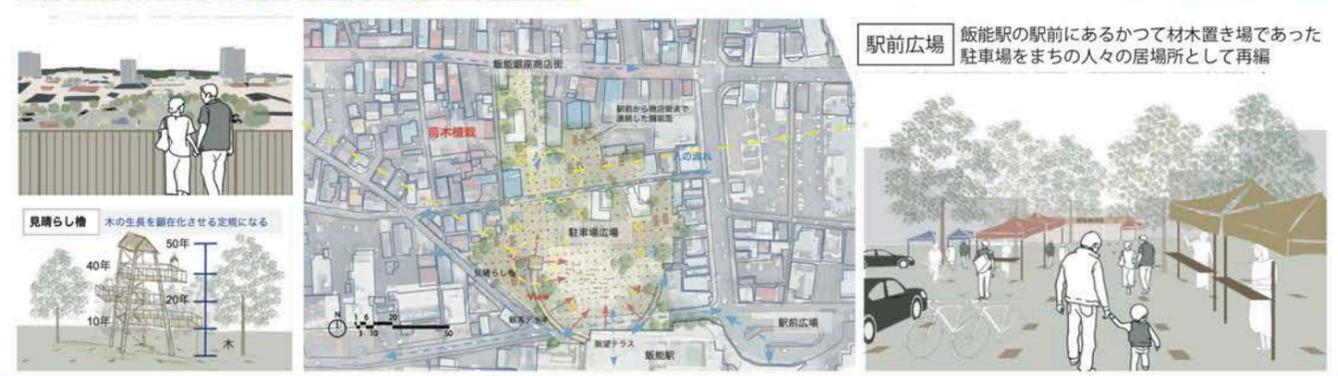
飯能河原東側に、苗木を支えていく肥料となる植物を群生させ、それがデッキと入り混じることで、日常的に飯能の風景を育てることにふれられる居場所をつくる。また、15mの落差のある河岸段丘の地形を利用し、様々なレベルに人々の居場所と視点場をつくりだすことで、飯能の住民と観光客を共存させる新たな飯能河原を提案する。

- ①苗木生育の肥料となる植物が居場所となる新たな飯能河原
- ②観光地化が進んでいる飯能河原に飯能の住民の居場所と活動を受け入れる場をつくる



## 設計：まちなか

苗床広場から住民が苗木を移植することで風景を自分ごととし、人の集う魅力的なまちなかの風景が創り出される。



飯能河原の左岸側に溜まっていく土砂に対してのアプローチがあると、更に提案に厚みが出るといった。

崎谷 浩一郎さん

対象地と駅前との繋がりが更に強くなり、それが見ると非常に面白いと思った。また、まちなかの設計で土に関する提案をもっと聞きたかった！

田嶋 豊さん

苗床広場が訪問者だけでなく、市民も入ってくるようになると、更に豊かな空間になるといった。

櫻村 菜実さん

河原の葦を刈る提案が他の河川敷地でも使えるのだとすると有効だと思う。

石野 剛史さん



# つみきば VISINON 2070

#西川材  
#木材生産・貯木



↑ 松戸 香奈枝  
東京大学  
工学系研究科 M1



↑ 原田 真央  
法政大学  
デザイン工学専攻 M1



↑ 佐藤 樹  
千葉大学  
環境園芸学専攻 M1



↑ 王 雪純  
武蔵野美術大学  
建築学科 M1



↑ 吉田 真歩  
お茶の水女子大学  
人間・環境科学科 B3



↑ 井野 貴文  
株式会社 グラック



↑ 木滑 公人  
株式会社 日建設計



木材生産の場と暮らしの場が調和する「つみきば」の街  
木を積むことで街に新たなライフスタイルが生まれ、  
そして街自体も積み替えられていく

加工される前のダイナミックな木の風景が想像できて面白い。体感的な場の感覚が原木のままに見えるのがいいね。



田嶋 豊さん

流れがあって素晴らしい提案。ラボの場所が徐々に変化していくと、50年、100年での姿が見えてきたのかな。建築スケールのものがあってよかったかも。



櫻村 菜実さん

説得力を持った導入。施設や公園の利用が提案によってどう変わっていくのか、空間的な魅力を語れるとなおいいな。



崎谷 浩一郎さん

完成形ではないのがいい。次の材の使い道さえ決まっていればいくらでもつくり直せるアイデアが面白い。



赤井 恒平さん

○PROBLEMS

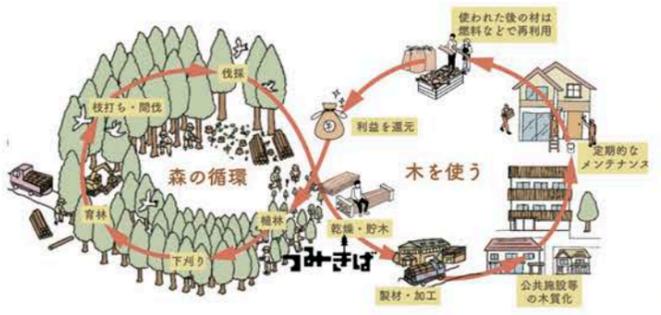
山と街の更新のタイミングが重なり、双方において課題を抱える飯能。山では、大径材を活用する機会の減少や管理の難しさが課題に、街では、公共施設の老朽化や山と街の住み分けの意識が課題となっています。

○SOLUTION

「こまめに手入れできる山」「こまめに手入れできる街」木材生産の場を暮らしの場に組み込んでいく街のあり方「つみきば」は、都心に最も近い林業の街飯能の豊かな森で根付いてきた木材生産の場を最大限に有効利用し持続可能性と魅力ある暮らしを両立する提案です。

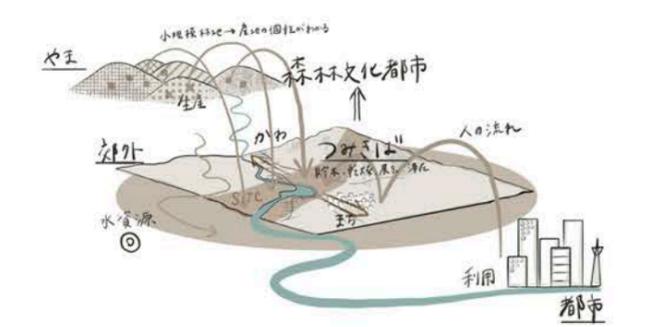
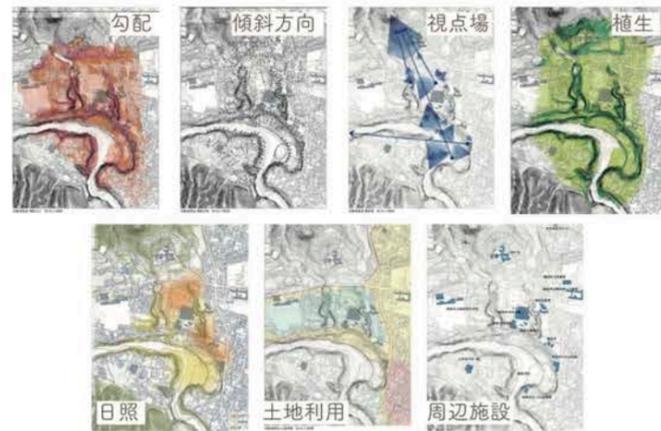
○STRATEGY

山と市街地の境界に貯木機能を設けることで、山と街の双方の暮らしを巻き込んだ新たな暮らしの場が生まれ、伐採後の受け皿となって山の循環を促し、これらを将来街で使っていくことで街の循環を促していきます。

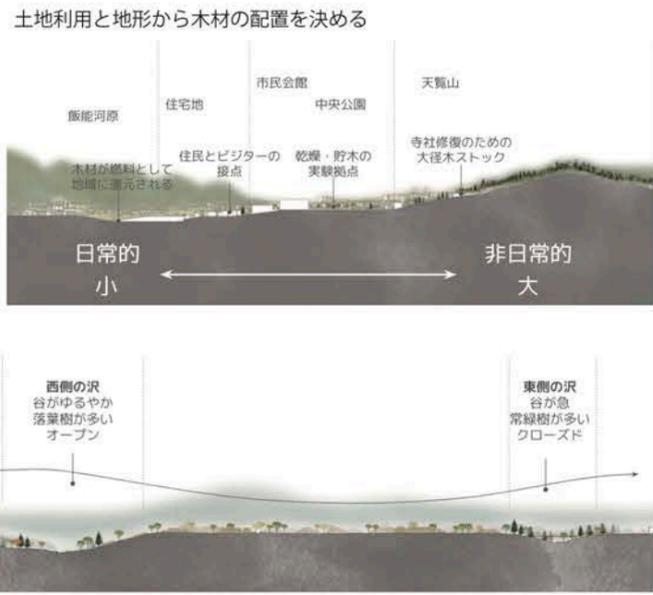


- ①様々な材を生むためにさまざまな環境で乾燥させる自然乾燥の3原則である
    - 太陽に当たる場所
    - 適度に湿った風がよく通る場所
    - 水はけがいい場所
- をふまえ、敷地内のポテンシャルを活かしながら貯木環境を検討しました

- ②周辺環境の要素を利用のゾーニングに反映する
- 2つめの手法として、7つの切り口で周辺環境要素を分析しました。



○DESIGN



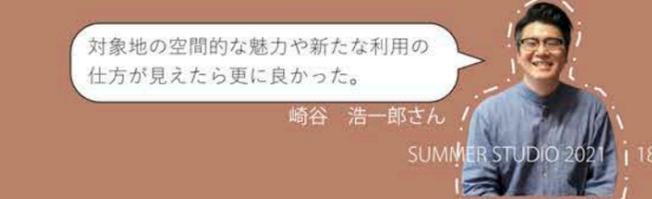
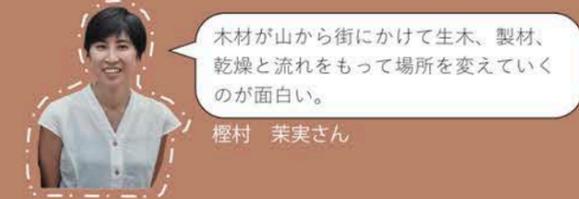
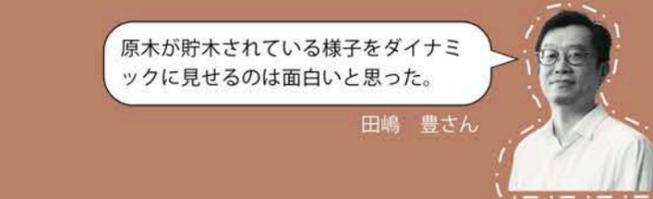
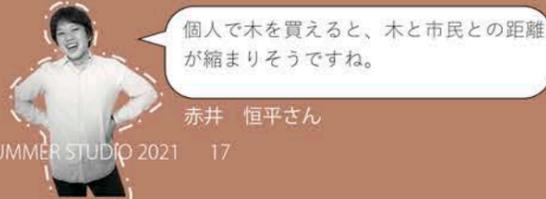
○PHASE



○SCENE



○VISION



# D SHIN・RIN ・TOWN 飯能

# 副業林業  
# 飯能多拠点暮らし



田中 真由  
東京大学  
建築学専攻 M1



高橋 美里  
東海大学  
観光学専攻 M1



齋藤 浩志郎  
法政大学  
都市環境デザイン専攻 M1



平井 朝葉  
東京農業大学  
地域環境科学部 B3



水野 謙吾  
大阪府立大学  
生命環境科学域 B3



鬼塚 知夏  
株式会社  
スタジオゲンクマガイ



大山 奈津美  
株式会社  
フィールドフォー・デザインオフィス

## SHIN・RIN・TOWN 飯能

森林文化都市 飯能——飯能市は、西川林業によって発展した街で、市街地と森林が近接しており、都心に近いにも関わらず自然が豊かである。一方、その自然の恩恵を直接享受している人は少なく、そのポテンシャルが十分に活用されていないという現状である。そこで、飯能に住まいながら、副業で林業など木に関わる仕事を行う人をターゲットとし、飯能の山・川・街をそれぞれ木材の生産・利用・発信の拠点としていく。これによって市民の暮らしの中に林業との接点を作り、飯能の地域資源である森林が日常の風景になるという、新しい森林文化都市—SHIN・RIN・TOWN 飯能—を目指した。



林道をセラピーロードにするのもいいですね。奥多摩にも同様の事例があったと思います。

赤井 恒平さん



短い期間で非常にダイナミックな提案ができていていると思う。

崎谷 浩一郎さん



この提案が実現すれば森と街の繋がりがより強く感じられると思った。

田嶋 豊さん



若い世代も書き込んで、「林業ってかっこいい!」と思ってもらえるようにしたい。

桜村 菜実さん

## CONCEPT：飯能を「森林文化都市」へ

### 【現状】

自然が豊かである・都心に近い街でありながら、現状の暮らしの中では森林を地域資源と感じづらい。

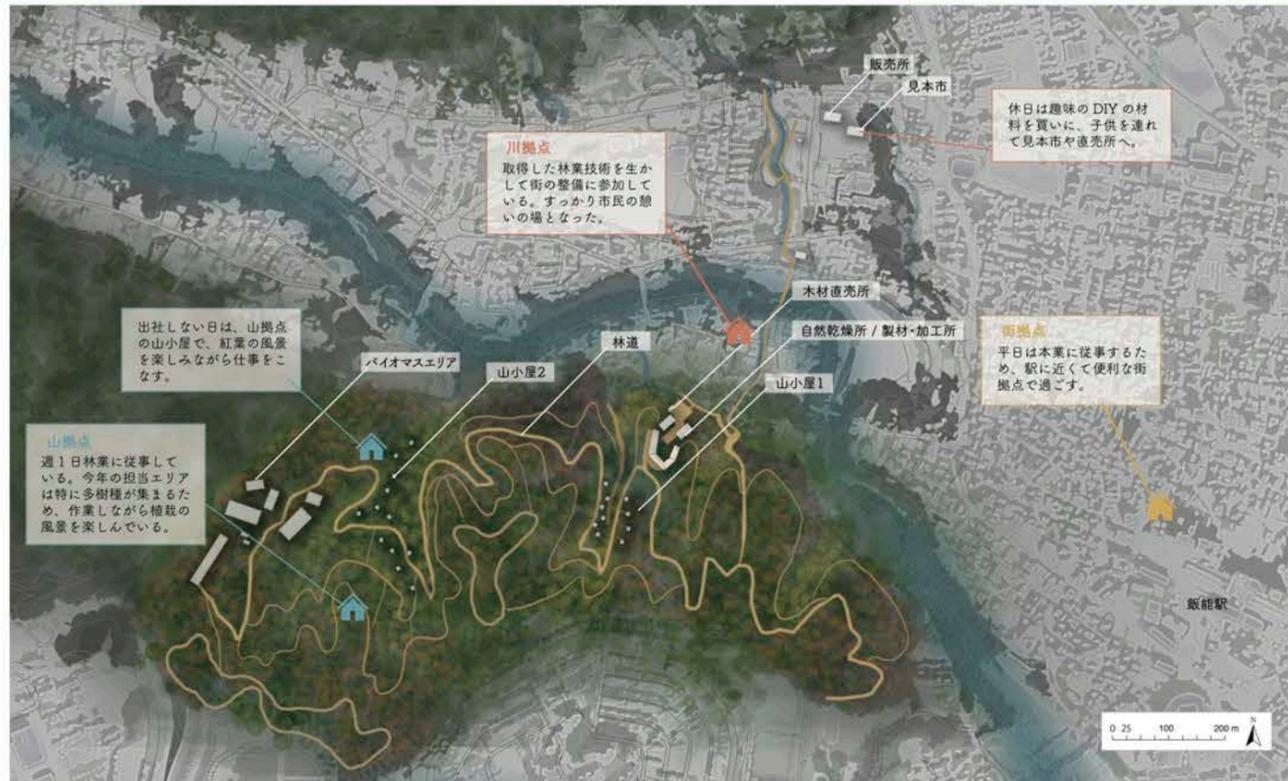


### 【ビジョン】

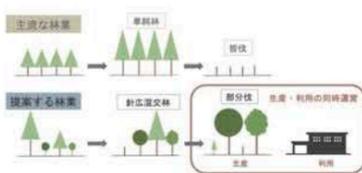
市民の暮らしの中に林業との接点を作ること、地域資源である森林が日常の風景となる。



## DESIGN



### A. 森づくり



現在主流となっている林業では、針葉樹のみで構成される単純林において皆伐されており、安定した伐採が見込めない。そこで新たな森林サイクルで森林管理を行う。針広混交林とし、樹種による収穫周期の違いを利用した部分伐を行うことで、毎年安定して多くの樹種の木材を獲得する。また、生産・加工・利用の同時運営により、従来よりも幅広い木材利用が可能となる。

## VISION：50年後の「森林文化都市・飯能」



## STRATEGY

### ①飯能内多拠点暮らし

アトリエ、半農ライフなど、働き方と暮らし方が多様化する飯能において、今後更に高まるその需要に対応し、「山・川・街」に拠点を設ける。市街地と山が近接しているという飯能のポテンシャルを活かしつつ、それぞれの拠点で働く・住む・遊ぶなど様々な活動を可能とする。

### ②林業を副業とする

林業及び木材利用を副業として営む体制を整備する。ビギナーからベテランまで、森林の中に自分の拠点を設け、林業に従事することができる。また、バイオマス発電や炭素クレジットなども同時に運営することで、多様な木材の使い方を実践し、副業として安定して収入を獲得できるようにする。

### B. 道づくり



飯能・名栗地方の林道の回らせ方を参考とし、林業初心者が多樹種の森林の隅まで管理を行うことができるような林道計画を行う。林業土木技術である丸太積土留工を用いたデザインとし、毎年の主な管理範囲の変化と共に、林道の位置も変化していく。



### C. 活動の場づくり

山拠点に、木材の乾燥・製材・利用のための加工所、バイオマス発電所を設ける。山の傾斜度分布や土砂災害危険区域を参考に建設可能区域を確認した後、各施設を加工順に配置し、効率的な木材加工を行う。またその過程で出た廃材をバイオマス発電所の燃料とし、そのエネルギーを乾燥や銭湯に利用することで、地域内でのエネルギーの地産地消を目指す。



林道の決定方法など、丁寧な分析ができていたと思った。

田嶋 豊さん

山拠点で過ごす時間が増えて、「山籠もり」をするような暮らしになっても面白いと思った。

櫻村 菜実さん

木の色々な使い方が提案されていると更に提案に厚みが出て良かった。

崎谷 浩一郎さん

林道がもつポテンシャルを更に高められれば良いと思った。

田嶋 豊さん

# やますそからはじまる

#山への眺望

#単線化



田中 晋  
東京農業大学  
地域環境科学研究科 M1



麻生 美波  
奈良女子大学  
人間総合科学研究科 M1



金 偉地  
多摩美術大学  
環境デザイン学科 M1



戸谷 祐登  
東京大学  
建築学科 B3



安田 有希  
日本大学  
まちづくり工学科 B3



小澤 亮太  
合同会社 HOC



原崎 寛明  
ハイアーキテクチャー

## やますそからはじまる

一通いたくなるまち・飯能



E

すごくよくりサーチが行われていて、地元の人たちからは絶対に出ないような発想だと思う。



田嶋 豊さん

飯能のまちと山の関係を捉えて、開発で失われたやますそを魅力的なものにしていこう、という考え方に共感しました。



崎谷 浩一郎さん

電車に乗っているとただ通り過ぎてしまうささいな変化を線路に沿って歩いていくことで気づくようになる点が面白い。



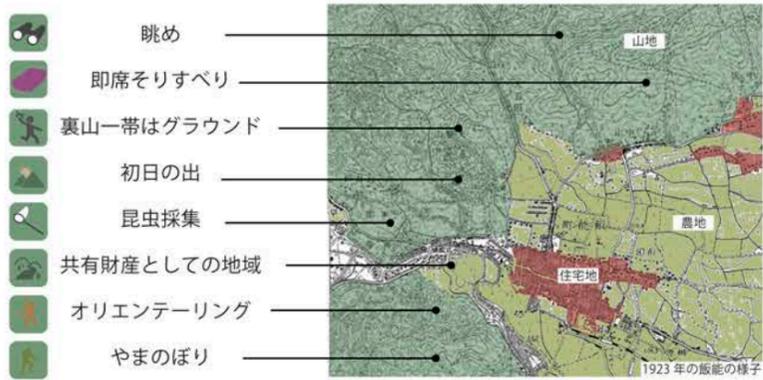
櫻村 菜実さん

新たに生み出す軸線が人の流れをダイナミックに変えてくれそうな期待ができるとても興味深い提案だった。

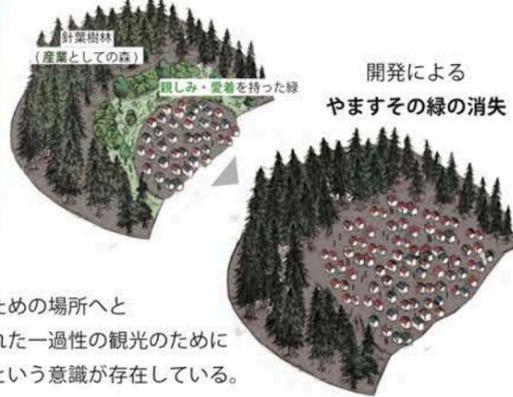


田嶋 豊さん

CONCEPT 新たな街のまちの骨格となる「やますそ」



飯能のまちを囲む山は眺望の森や初日の出スポットなど、さまざまなアクティビティを通じて飯能に暮らす人々に親しまれていた。この緑には産業林とも里山とも異なる「やますそ」としての価値が存在している。



鉄道の開通などの度重なる開発によって豊かな緑を形成していた地域が住宅開発のための場所へと変化したことで、住民に親しまれていたやますその緑は失われ、歴史の文脈から離れた一過性の観光のために利用されている。現在の飯能では生活の場である市街地と観光地である周辺の森、という意識が存在している。

かつて愛着のあるものだった「やますそ」を新しいまちの骨格とすることで飯能の魅力を再編する

DESIGN



西武線の車両ポイントを変更することで単線部分を拡張し、その廃線部分をまちの骨格として空間転用を図る。それにより人の流れを変えてやますそのある景色への気づきを形成する。さらに、廃線路からまちに空間がつながることで、やますそが新たな骨格として浮き彫りになり、現代におけるやますその距離感が形成されたこれからの郊外としての機能を再構成する。

	まちの緑	やますその緑	山
植物構造	種類単一、不安定「人工感」	中間帯(低木が多い)	多層 持続可能「自然感」
人との関係			
性質	景観、植栽	暮らし、生産	林業、観光

空間的な定義

飯能におけるやますそ空間では林業や観光、植栽などのためではなく、人々の暮らしの風景の一部としての多様な緑が存在する。

やますそへ近づくシーケンス

まちから山につながっていくひと繋りの風景として物理的にも身体的にもやますそへ近づくシーケンスを形成する。線路の高さとやますその関係に従って緑の配置や濃度を変化させていくことで空間を構成する。



駅周辺 | 人の流れを変える



駅からつながるエントランス空間にかつての旧天覧山駅から天覧山への観光軸のような桜並木で人を引き込む

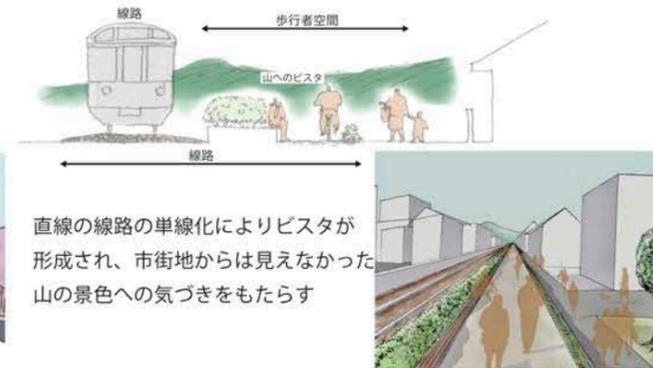
高台 | まちからの視点場



山を望むことでかつてのまちと山とのつながりを彷彿させる

視点場からのぞむ山によりまちからやますそまでの一体感が感じられる

接地線路 | 景色への気づき



直線の線路の単線化によりビスタが形成され、市街地からは見えなかった山の景色への気づきをもたらす

高架 | やまへとつながる



三方向を山に囲まれ、高架から山道までの緑の中を遊歩道がつながる

様々な場面で飯能の新しい暮らしの風景として溶け込んでいく



線路の両脇は斜面地で再び発生する、かつてやますそに存在した空間やアクティビティはやがてまちの一部となる。

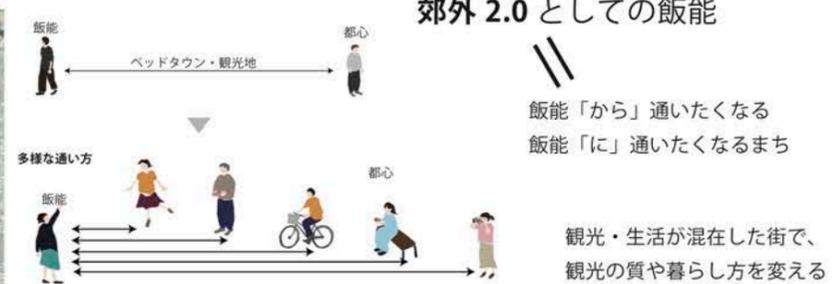


山に近づくシーケンスが生まれることでやますそへとつながる緑が再構成されることでやますそへの心理的な距離を近づける。

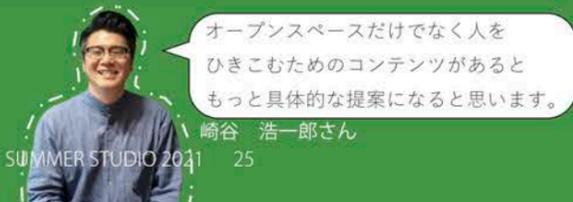
VISION 通いたくなるまち・飯能の実現



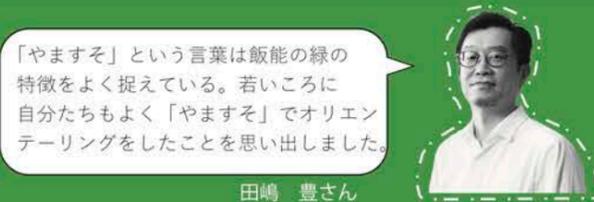
まちがやますそにつながることで、これまでの「山」の見え方が変化し、愛着や親しみが生まれ、魅力あるやますそが新たな街の骨格となる。



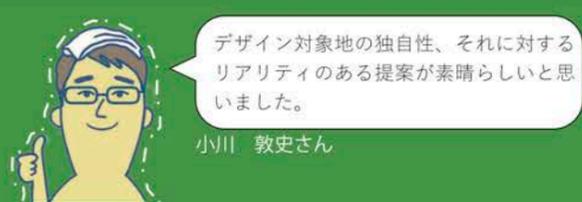
新たなやますそでのつながり



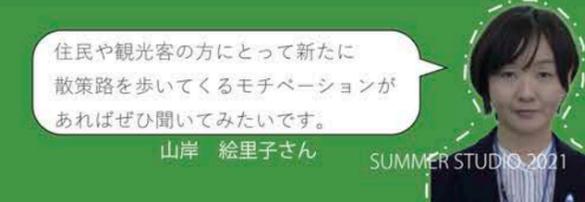
オープンスペースだけでなく人をひきこむためのコンテンツがあると、もっと具体的な提案になると思います。  
崎谷 浩一郎さん



「やますそ」という言葉は飯能の緑の特徴をよく捉えている。若いころに自分たちもよく「やますそ」でオリエンテーリングをしたことを思い出しました。  
田嶋 豊さん



デザイン対象地の独自性、それに対するリアリティのある提案が素晴らしいと思いました。  
小川 敦史さん



住民や観光客の方にとって新たに散策路を歩いてくるモチベーションがあればぜひ聞いてみたいです。  
山岸 絵里子さん

# 助け合いのむすびめ

～いどばた・やまぎわから始まる豊かでしなやかな暮らし～

#助け合い  
#自立する郊外



杉本 達宏  
東京大学大学院  
社会基盤学専攻 M1



鍋島 敦仁  
千葉大学大学院  
園芸学研究科 M1



岩六口 颯音  
武蔵野美術大学大学院  
建築コース M1



下川 洋怜  
日本女子大学  
家政学部 B3



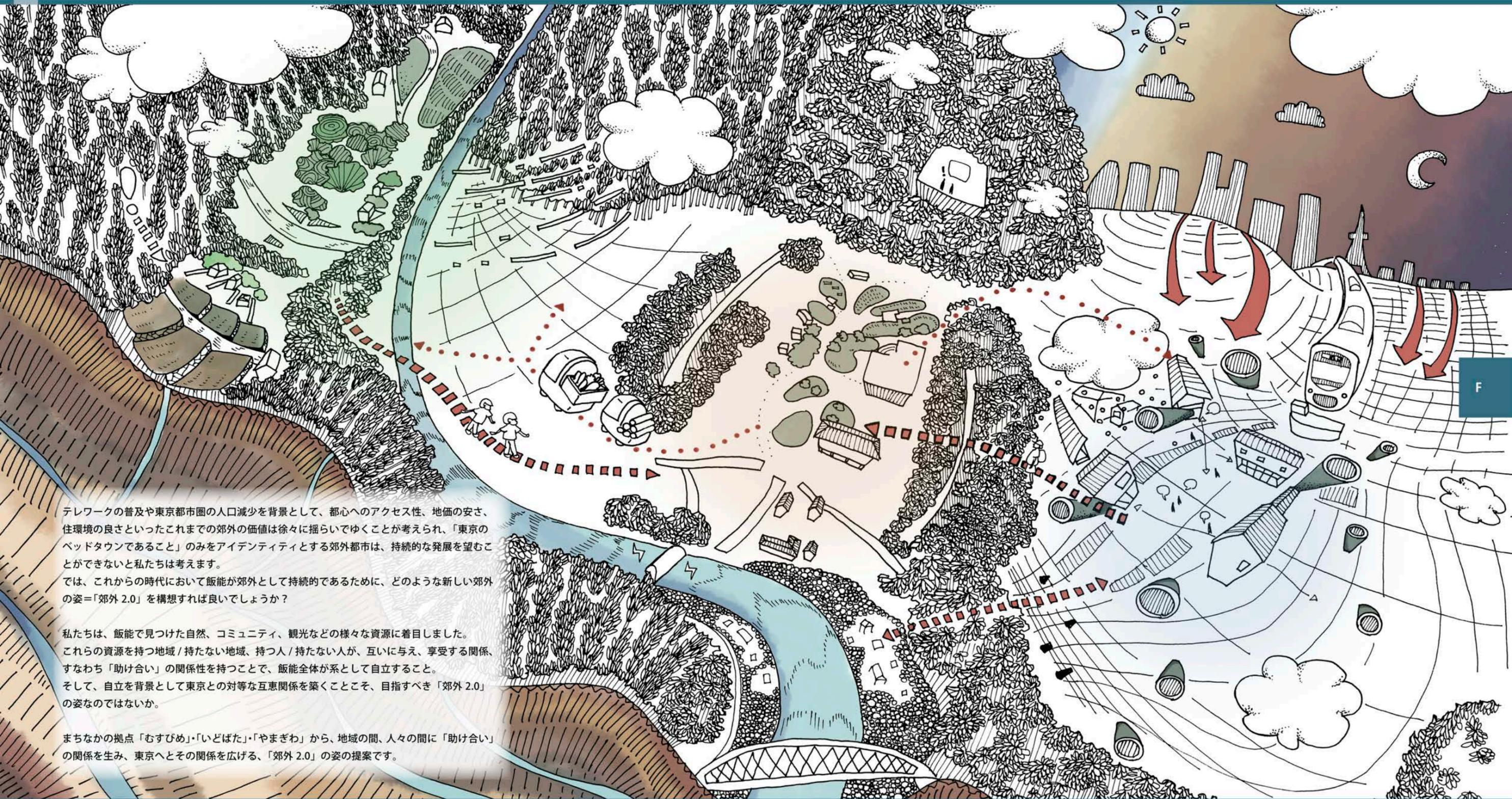
野池 優里花  
東京農業大学  
造園科学科 B3



岸 孝  
株式会社 プレイスメディア



小粥 慶子  
有限会社  
小野寺康都市設計事務所



テレワークの普及や東京都市圏の人口減少を背景として、都心へのアクセス性、地価の安さ、住環境の良さといったこれまでの郊外の価値は徐々に揺らいでいくことが考えられ、「東京のベッドタウンであること」のみをアイデンティティとする郊外都市は、持続的な発展を望むことができないと私たちは考えます。

では、これからの時代において飯能が郊外として持続的であるために、どのような新しい郊外の姿＝「郊外 2.0」を構想すれば良いのでしょうか？

私たちは、飯能で見つけた自然、コミュニティ、観光などの様々な資源に着目しました。これらの資源を持つ地域 / 持たない地域、持つ人 / 持たない人が、互いに与え、享受する関係、すなわち「助け合い」の関係性を持つことで、飯能全体が系として自立すること。

そして、自立を背景として東京との対等な互恵関係を築くことこそ、目指すべき「郊外 2.0」の姿なのではないか。

まちなかの拠点「むすびめ」・「いどばた」・「やまぎわ」から、地域の間、人々の間に「助け合い」の関係を生み、東京へとその関係を広げる、「郊外 2.0」の姿の提案です。

井戸を起点にしたコミュニティの再構築が非常に面白い。  
赤井 恒平さん

モビリティに関する提案があれば、更に結び目が強くなるのではないかと思います。  
田嶋 豊さん

何かを足すのではなく、引くことで新たな繋がりが生まれるという提案が良い。  
櫻村 菜実さん

都市計画、環境など、多角的な視点が取り入れられていて良い。  
崎谷 浩一郎さん

## Background：飯能と郊外の現状

### 飯能の「山」と「街」

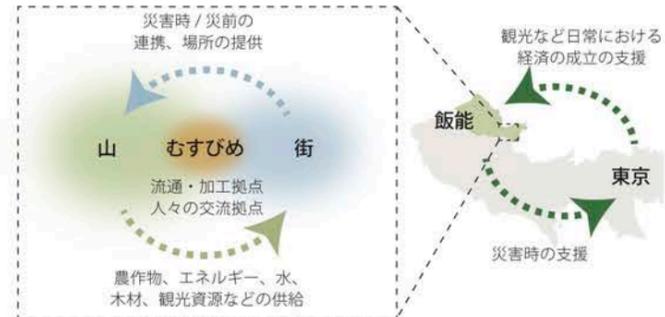
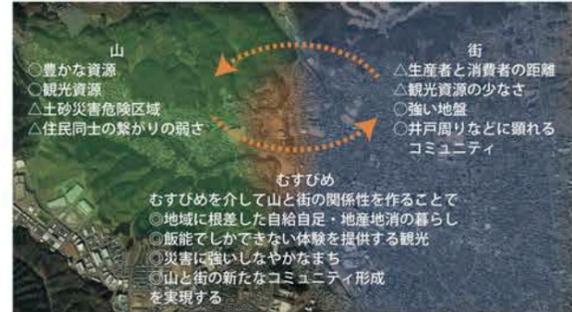
飯能のまちは対象敷地周辺を境に山と街の二つの地域からできており、それぞれに地形、生業、住む人々の特徴を持ち、異なるコミュニティが形成されている。街側での高齢化と見守りの不足、山側の災害への危険というように、それぞれの地域の抱える課題もまた異なる。



### 郊外と東京

これまでの郊外＝「郊外 1.0」は、経済や生活の面で都心部に依存した存在だった。様々な資源や課題を持った地域が交流することで全体として自立し、東京との常時/非常時の互恵的な交流関係を持つ郊外の姿を「郊外 2.0」と定義し、計画できないだろうか。

## Concept：助け合いのむすびめ



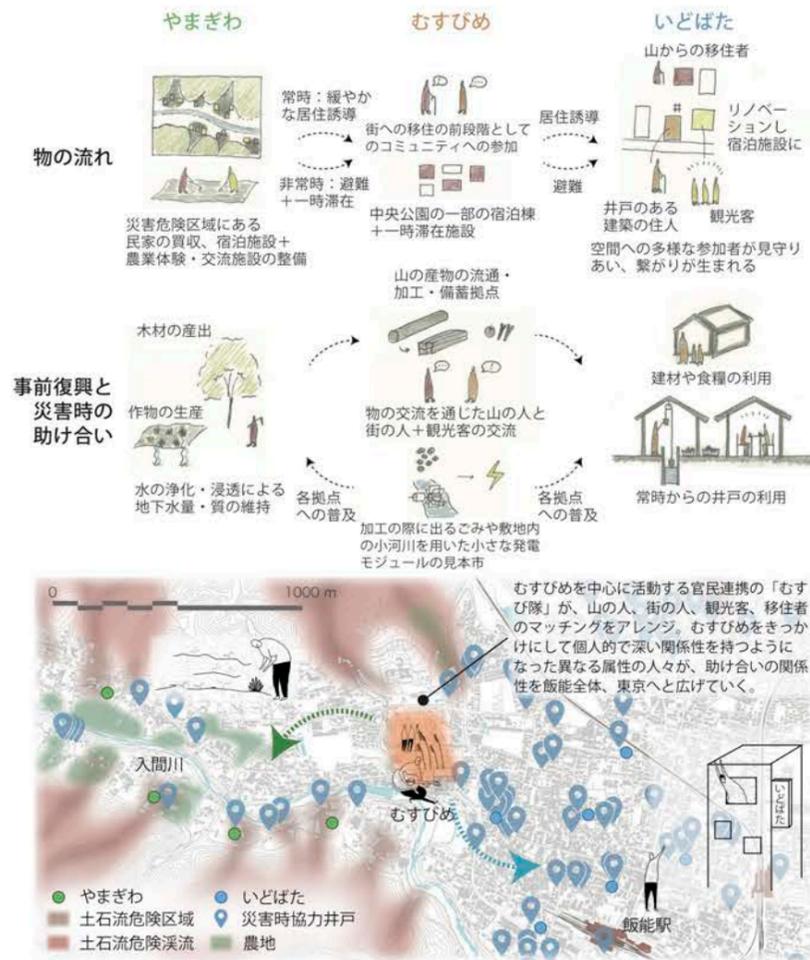
異なる特徴を持つ山と街がむすびめを介して助け合いの関係を持ち、その関係が飯能全体へと広がることで、常時に地域資源を地産地消する豊かな暮らし、非常時にも常時に形成された関係を頼ることのできるしなやかな暮らしを実現する。人々の間に生まれる助け合いの関係は観光などを通じてやがて飯能と東京の間にも構築される。自立した郊外となった飯能は、東京での大災害時などには東京を支える役割を担うことができる。

### 「むすびめ」の機能

「むすびめ」は現在の中央公園の部分に作られる。山で採れた野菜や木材の直売や加工体験を行う場、街のポップアップストアなどが集う場となり、山の人、街の人、観光客、移住者など異なる属性の人々の出会うきっかけを作る場所となる。非常時には物資供給、一時避難拠点として機能し、助け合いの舞台となる。

### 助け合いを広げる「やまぎわ」「いどばた」

「むすびめ」で芽生えた助け合いの関係を飯能全体に広げるために山、街に拠点を整備する。山側の拠点：土砂災害危険地域とその周辺を農地と体験施設として整備した「やまぎわ」街側の拠点：共同で使われてきた歴史をもつ井戸の周辺をリノベーションした「いどばた」



## Design：助け合いを生み出すむすびめ・いどばた・やまぎわのデザイン

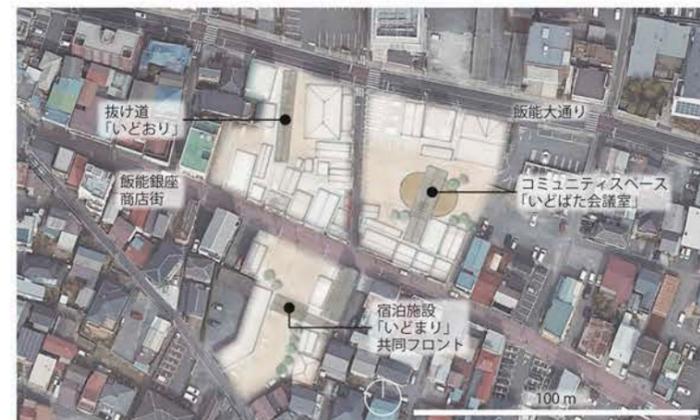


### むすびめ

産物の集積、加工、販売や交流体験、観光案内をきっかけにして、観光客と地域住民、山の人と街の人など、飯能に集う多様な人々が出会う。市民会館は「むすび隊」の活動拠点となり、飯能に集う人々のマッチングを行う。災害時にも助け合える関係がここから作られていく。また、飯能の山と街を回遊するパーソナルモビリティの導入を想定し、モビリティの乗換拠点を整備する。



飯能や東京での災害時には、仮設のテントが展開され、飯能全体への物資の供給拠点となる



### いどばた

街中の井戸は現状、家の裏庭や私有地の中にあり表通りからは見えにくくなっている。しかし、昔は近所の人たちのコミュニティスペースとしての役割を担っていた。井戸のある老朽化した建築や周辺の空き地をリノベーションして新たなコミュニティスペースや宿泊施設とすることで、高齢者の見守りも実現される。



既存の井戸と空き地を利用した「井戸端会議室」

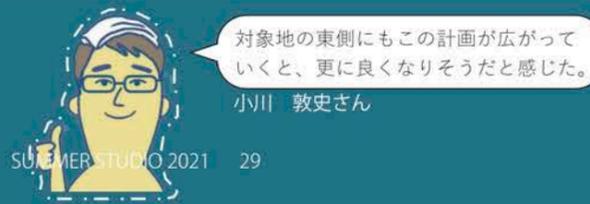


### やまぎわ

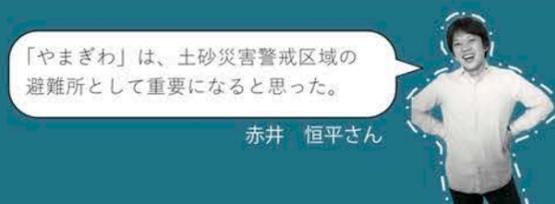
むすびめより上流の中山間地域に広がる土石流危険区域とその周辺を、農地、体験・滞在施設として整備する。「アグリカルチャルなやまぎわ」危険区域内に現存する家屋からの移住を時間をかけて進め、一部の被害を受けにくい民家を宿泊施設や市民会館の分棟にコンバージョン。農地や植樹した林は土石流を和らげる効果を持つ。



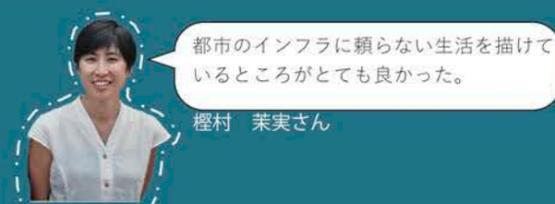
危険地域に整備した農地を中心とした体験・滞在施設「アグリカルチャルなやまぎわ」



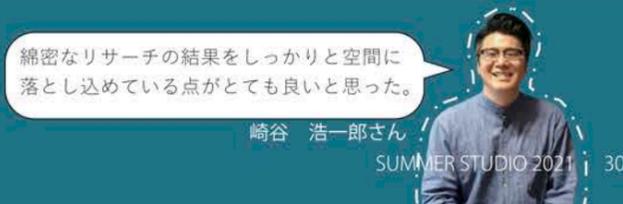
対象地の東側にもこの計画が広がっていくと、更に良くなりそうだと感じた。  
小川 敦史さん



「やまぎわ」は、土砂災害警戒区域の避難所として重要になると思った。  
赤井 恒平さん



都市のインフラに頼らない生活を描けているところがとても良かった。  
櫻村 茉実さん



綿密なリサーチの結果をしっかりと空間に落とし込めている点がとても良かった。  
崎谷 浩一郎さん

# ゲスト総評

(株) TERRAIN architects

榎村 芙実

FUMI KASIMURA



みなさん、お疲れ様でした。大変興味深い提案ばかりで私自身も、色々な視点があるんだなということを改めて勉強する思いで聴いていました。

最初の D 班の「混合で色々な集団の樹木を植えていく」という提案は素晴らしいと思いました。そこまで考えて提案しているんだなということに驚きを持って聞いていました。

つきまばの案も、風の流れや湿地の様子、そのようなところから読み解いて行って敷地を選定する点がすごいなと思いました。

E 班は、ここが敷地だよと言われているにも関わらず、ちょっ

と敷地の外側を見ながら、その中でこのこですよというのに最後に落とし込んでくるという視点がすごくいいなと思いました。やっぱり単独で生きている人もいなければ、単独でテーマパークみたいに聳え立っている場所、敷地はないので、そういった中で役割を見据えるというのは良い視点だと思います。

それから B 班は、駅前、駐車場の提案、この短期間で、その小さなスケールにまで踏み込んでいくというところで、それはすごく良いチャレンジだなと思います。F 班は、大きな想いと、詳細な提案がかなり盛りだくさんで、希望を持って見ることができる、素晴らしい提案だと思います。

そして A 班は、緩やかに地形を崩すという言葉がとても良いなと思いました。暴力的な擁壁という風に言っていたと思うのですが、擁壁だったり大きな道路とか、線路とか、土木的な都市スケールの非常に大きなものも、悪者ではないと思うんで

すよね。それらがあることによって築えてきた歴史もありますし、それによって安心感、安定感、あるいはメンテナンスに関して、助けられてきた部分もとても大きいと思うんです。それを否定せずに、じゃあ次にそれをつくるときにどうしたら良いのか、っていうのを少しスケールダウンしたり、少しスローダウンする視点というのが今回の提案の中で見る事ができたこと、素晴らしい視点だなと思いました。

私はちょっと畑違いだということを感じていたんですけど、今回、審査員の方たちもそうですし、色々な分野の人たちの意見を聞いていく中で、同じコンテキストの中にいるんだということを改めて感じました。分野が違うのではなくて、大きなスケールの中で、その全体の中での個人であるということに改めて認識することができたという上で、私としても充実した時間になりました。ありがとうございました。

(株) EAU

崎谷 浩一郎

KOICHIRO SAKITANI



参加された皆さんお疲れ様でした。運営された皆さんありがとうございます。飯能市の方も、ありがとうございます。非常にあっという間の講評会でした。それだけ皆さんの提案が魅力的で具体的で未来に対して希望を持つひと時でした。

僕は西部池袋線ユーザーなので、飯能という、場所・土地・街について、勝手に親近感があったものの、しっかりと降り立ったことがなかったんですね(笑)。今回造園学会さんの関東支部の「サマースタジオ 2021」ということで機会をいただいて、初めて今日、しかも今日の午前中に行けたということでもっとゆっくり行けたらよかった。

着いたら非常に風が気持ちよくて空気が気持ちよくて、これが入間川の河岸段丘の隙間を抜けてきている風なんだなと思いながら、まず博物館を目指しました。博物館っていうのは街にあると行くんですけど、結構しょんぼりした博物館が多いなか、たまたま飯能市の博物館では小学生の研究発表を企画としてやられていたこともあるのかもしれませんが、非常に明るい雰囲気の人がたくさんいて、日曜日の午前中にもかかわらず、なんかにぎやかでした。あと、道すがら木漏れ日の道だったか、一回、下がって上がる道を通ったんですね。多分地元の方はわかると思うんですけど、そこはすごい鬱蒼としたカシの林になっていて、その空間が非常に気持ちよかったです。

個々の案に対しては、そうですね。コメントしていると長くなるので、個人的には受賞には至らなかったんですけど、F チームの「混ぜる」ってキーワードを出させてもらったんですけど、

非常に F チームのスケール感を持った、色々な混ぜ方に感銘を受けていました。ほかの提案も皆さん素晴らしかったと思います。後ほど補足でコメントとかできたらなと思います。とりあえずお疲れ様でした。ありがとうございました。

(株) ランドスケープデザイン

田嶋 豊

YUTAKA TAJIMA



皆さんお疲れさまでした。事務局の皆さん、あと本ワークショップに尽力くださった皆さん、飯能市の皆様、本当にありがとうございました。それからこのコロナ禍ということで、なかなか集まって、ワークできる環境ではなかったと思うんですけど、果敢にも今回のワークショップに参加してくださった学生の皆さん、本当にありがとうございました。

私は飯能市民の一人としてまず…飯能市民じゃないですね今はね(笑)。全然飯能市民じゃないですけど飯能市民を代表してまず御礼申し上げます。ありがとうございました。

全体の講評ですが、私の場合はですね、地元ということで、

この地元に対して造園、ランドスケープに関わる学生たちが、私が想定していたより相当刺激的な提案をしてくれました。感激しています。

自分は今 25 年ぐらいランドスケープやってくる中でまさか自分の地元がこういった造園学会のワークショップの対象地になるなんて思ってもいなかったの、飯能に対して、学生の皆でホットな提案をしていただいて本当に感激しているというのが、第一の感想です。本当にありがとうございました。

一つ一つの提案は、ものすごく個性的な提案が多かったですね。最優秀賞、優秀賞で A チーム、C チームという形になりましたけど、実は私は E チームをすごい推していました。私の中で E チームが最高得点であったことはちょっとお伝えします。なぜかというと、やっぱり E チームのアプローチっていうのはランドスケープ的なアプローチという意味で私すごく一番

しっくりきています。というのは E チームの課題はコメントの中でも言ったんですけど、対象地に対して、対象地そのものを対象とするのではなくて、それを取り巻く関係性から対象地を解いていこうという視線というかビジョンというのが、これってザ・ランドスケープだよっていう風に私の中で思っているの、そのアプローチに対して私は高い評価をしていました。ただ恐らくちょっと具体的な空間の提案とかに対して若干物足りなさを感じたということで賞っていう形にはならなかったと思うんですけど、こういった感じに受賞しなかったチームでも非常に推している審査員がいたってことを承知していただければと思います。私の中では E チームが最優秀という形になっていますので、E チームの方おめでとうございます(笑)。

AKAI Factory  
**赤井 恒平**  
KOHEI AKAI



みなさん提案ありがとうございました。お疲れ様でした。  
各チームそれぞれの風景を持っていて、提案内容もランドスケープなのか、まちづくりなのかというところが、さまざまな内容があっっておもしろかったです。  
提案の中にも、ポイントポイントでこれ一緒にやりたいな、是非一緒にやってもらいたいなというもたくさんあったので、またコメントさせていただけたらと思います。

学生の皆さん、就職して、仕事始めて「あ、なんか疲れたな」と思ったら、飯能に来てください。

飯能ってそういう場所です笑。

ありがとうございました。

## 日本造園学会関東支部長より

東京農業大学  
**阿部 伸太**  
SHINTA ABE



本当に今日はありがとうございました。審査員の方々、それからゲストの皆さん、本当に遅い時間までありがとうございました。

提案もすぐできるものから、かなり時間をかけてやらなきゃいけないものまで色々あったんですけども、非常にクリエイティブな提案がされていたので、まあ今後が楽しみだという風に思います。ぜひですね、12月にあります支部大会までうまいこと時間を見つけてバージョンアップしていただければという風に思います。

今回受け入れていただきました飯能市の皆様、それからゲストの皆様、協賛いただいた方々、本当にありがとうございました。それと何はともあれ参加していただく学生の皆さんがいなくて成り立ちませんので、こういった時間の中で、参加いただいて、短い時間の中でエネルギー使っていただいて本当にありがとうございました。それと最後にチューターの皆様、お仕事お忙しい中、学生に寄り添って色々サポートしていただきまして本当にありがとうございました。

これで終わりっていうわけではなく、うまく時間見つけて、やっぱりいくつかここが良くなれば本当に満点だったなというのがいっぱいあるので、ぜひそこを詰めていただければという風に思います。ありがとうございました。

飯能市 企画部 企画調整課

**小川 敦史**  
ATSUSHI OGAWA



飯能市を題材にいただいたことが本当に嬉しく、一生懸命毎日専門分野を勉強している方々が力を合わせて飯能市について考えていただけた事がありがたかったです。

まずCチームのように、対象エリアの中だけで完結させようとする難しい題材ではあったので、飯能市全体を使って、その中の一部エリアとしてどう扱ったかという視点でも良く、タイトルからしてキャッチーで、すごくイメージしやすい。林木とか製材段階、乾燥段階のものでここまで人の心を掴ませることができる、すごく大きな潜在能力を感じました。確かに短いスパンで実現できるかもしれないですが、未来への流れというところで見ると、一連の流れとして未来に向けて継続してやっていけると感じました。

次にAチームですね。はんのう土木というキーワード、それから一番いいなと思ったのは協働という考え方が非常にすばらしかったと思います。土木というハードに協働を取り入れる考え方が正直私に全くなく、考え方を大きく広げてくれるすばらしいアイデアを出していただいて、非常に良かったと思いました。

これで終わりということではなく、我々も一生懸命どうやったら形に入れられるかなと考えていきたいですし、皆さんも飯能市に関わりを持っていただいているので今後も色々な形で関係性をもち続けていただければ大変ありがたいなと思います。ありがとうございました。

飯能市 産業観光部 観光・エコツーリズム課

**山岸 絵理子**  
ERIKO YAMAGISHI



今日は本当にありがとうございました。当市を題材にいただいたことに本当に感謝しかありません。行政課題に真剣に向き合って、素晴らしいアイデアをご提案いただいて非常に意義深いものを感じております。

Bチームさん、駅前の駐車場に緑道を作ることがすごくいいなと感じまして、何しろ人が自然を育てて人と人をつなげる考え方が素晴らしいなと思って、そういう地域の方々のパワーで作っていく。しかもその緑道の周りでは通勤の方々にも配慮しながら、緑道でまちをつなげるというのが、私はすごくよかったなと考えております。

Aチームさん、名栗で地域の方が作った名栗川橋があって、名栗の方のシビックプライドを醸成しています。Aチームの提案もそういったコンセプトは非常に素晴らしいなと感じました。行政の土木が、地域の方々で惜しげもなく地域のために協力するというコンセプトで実現したら素晴らしいなと感じます。

この短い間に飯能の地で考えていただきました。皆さんの思い出の地になってもらえれば嬉しいなと思っております。いつでも飯能市はウェルカムなのでぜひ足を運んでみて下さい。お疲れ様でした。

埼玉県 県土整備部 河川環境課

**石野 剛史**  
TAKESHI ISHINO



短時間で非常に素晴らしい提案で、これから飯能市の方々と相談してどれか一つではなく、実現できそうなところを形にできればと思っています。

すごく具体的な提案から、長期に渡る視野が広い提案まで非常に面白かったので、機会があればぜひ参加したいと思っています。また地域のブランディングを含めて考えていかなければならないと思い、非常に参考になりました。ありがとうございました。

# インタビューコーナー

## 今の自身の形成に繋がっている学生時代の経験は？



櫻村さん

徹夜を繰り返し必死で課題に取り組んだこと、いっぱいお酒を飲み、楽しいこと恥ずかしいことを沢山経験したこと、でしょうか。大人になってみると、やりたくてもできないことが増え、やりたい時にやりたいことをしておいて良かったな、今、できることを楽しもう、というマインドが形成されました。

崎谷さん

小中高は佐賀、浪人は京都、大学は札幌、大学院は東京と、学生時代を色々なまちで過ごしました。各地で色々な人に出会い、色々な風景に出会えました。それらとの邂逅によって今の自分がある気がします。

田嶋さん

大学3年終了時に休学して、何の目的もなくアメリカへ。当時は、二度と日本の地は踏めないのではないかというくらい決死の覚悟でした。まったく英語を喋れないのに北米大陸を横断、縦断している際に、ランドスケープアーキテクトという職能と出会う（奥さんとも出会う）。今でいうセレンディピティですかね。

赤井さん

大学は理工学部だったのですが、「優」とった科目が「美術史」「フランス語」だけでした。この時、自分は理系じゃなかったんだなと気が付いて、アートにかかわる仕事をしようと心に決めました。人生、どこで変化が起きるか分かりませんね。

阿部さん

いろいろな旅。木曾の山間・妻籠宿、静寂の暗闇に浮かび上がる格子窓の明かり、銚子漁港の小さな小さな食堂で食べたアサリの味噌汁付きの刺身定食、襟裳岬の断崖絶壁のエッジを歩く逆光で金色の輪郭の毛並みのキタキツネのシルエット、知床の寂しくも活気のある漁港、どこに行ってもその土地ならではの味わいを感じました。

小川さん

「アルバイト」ですね。恥ずかしながら、学生時代は学業よりアルバイトに力を注いでました。深くは考えていませんでしたが、大学での勉強や実験より楽しかったし、やりがいを感じていました。親には申し訳ないことをしましたが、仕事の魅力に勤つき、仕事感を考えるルーツともなったこの経験は私の人生の宝物です。



山岸さん

現在の職に就きながら、夜、大学に通っていました。現在の仕事での気づきが学びの糧となり、また、学んだことを仕事で生かすこともできたことに、充実感がありました。社会人として、たゆまず学び続けることがいかに大切であるかを実感した経験だと思っています。

石野さん

学生最後の夏、小学生が自転車日本一周チャレンジのテレビを見た翌日に自転車を購入し、埼玉から親戚のいる兵庫まで行き当たりばったリツーリング。友人の実家などを転々と経由しながらの旅に多くの出会いがあり、楽しさにはまる。翌年、就職せずにワーキングホリデーでオーストラリアに。人生、思い立ったらまず行動が吉。

## 自分が今までに影響を受けた場所、映画、本は？



櫻村さん

夕日に照らされた「泥のモスク」での体験から、素材を強く意識するようになりました。その後アフリカで仕事をするようになって、援助じゃなく仕事、という立脚点を「ボバティー・インク」が思い出させてくれます。建築はつくり出すものではありません、発見することです。「グレンマーカットの建築」はよく読み返します。



崎谷さん

友だちもつからず勉強だけしていた京都浪人時代、鴨川の土手に佇むのが好きでした。ひとりで居れる場所って大事。黒澤明監督の映画「生きる」は社会や人生を豊かにするのは結局ひとりひとりの責任だによって教えてくれます。目に見えない世界を発酵と文化人類学の視点から面白く伝える小倉ヒラクさんの「発酵文化人類学」は愛読書です。



田嶋さん

場所：「西武線豊島園駅前広場」駅前ののに空き地感がたまらない。映画：「Bohemian Rhapsody」1985年7月13日LIVE AIDのラストシーンに号泣。その2ヶ月前、来日していたフレディにハグされた。人生初のハグ。本：J.B. ジャクソン「Discovering the Vernacular Landscape」学生時代に手にしてから25年以上、やっと自分の仕事とオーバーラップしてきた。

## 学生時代には知らなかった今の仕事の魅力は？



櫻村 さん

完成した時の感動です。どんなに頑張っても結局机上の空論、そのことに虚無感を抱いたことはありませんでしたが、学生時代には知り得なかった魅力でした。初めてインドネシアで図書室が完成した時、思い描いていたものが本物になって目の前に現れて、震えるような感動を覚えました。あの感動をもう一度、と続けています。

崎谷 さん

子どもの頃からものをつくることは好きでしたが、実際に社会でもものをつくるのがこんなにも複雑で面倒で思った通りにいかなくて、そして面白いなんて知りませんでした。細胞から宇宙までのつながりを感じるのが魅力です。

田嶋 さん

学生時代は公園を設計する職能があることすら知らなかった。就職した当時の事務所は、100%民間クライアントだったけど、公園設計をしたいと思いつけていたら、いつの間にか公園設計だけでも食べていけるようになりました。思いはかなうもの。いつか、「世界で一番やさしい公園設計」を書こうかなと思っています。かなうかな。

赤井 さん

地域づくりの仕事は、たくさんの人と出会い、たくさんのことを勉強させてもらえるのが魅力です。学生の頃は、社交性の低い自分は研究職とかがあってるんだろうな、と思っていました。ところが、社会人になってたくさんステキな人と出会い、その考えにふれることで世界が広がりました。



阿部 さん

ニューヨークのセントラルパークが、オルムステッドだけでなく、ドーニング、市長など様々な立場の存在や人の関係でプロジェクトが興った。突っつきどころの面白さ。2011年の木更津市初の「緑の基本計画」で港湾部を重点地区とし、それが2019年に海浜公園のPARK-PFIでのカフェコンベで具現化しました。もうすぐ完成。

山岸 さん

住民や事業者などとの対話を重ねることで、仕事を進めていくことに、大変さを感じつつも、やりがいを感じています。やはり、「人」と関わることで、多くの気づきを与えられ、市の魅力や課題が浮き彫りとなり、それらに向き合うことでさらに市を好きになっていく。この繰り返しの魅力を感じています。

小川 さん

学生時代は、卒業するまでに色々な仕事を体験したいと思っていくつかのアルバイトを経験しました。市役所の仕事は、部署が変われば転職したかのように仕事の内容がガラッと変わり、実に多くの分野を経験できるのが魅力の1つだと思います。

石野 さん

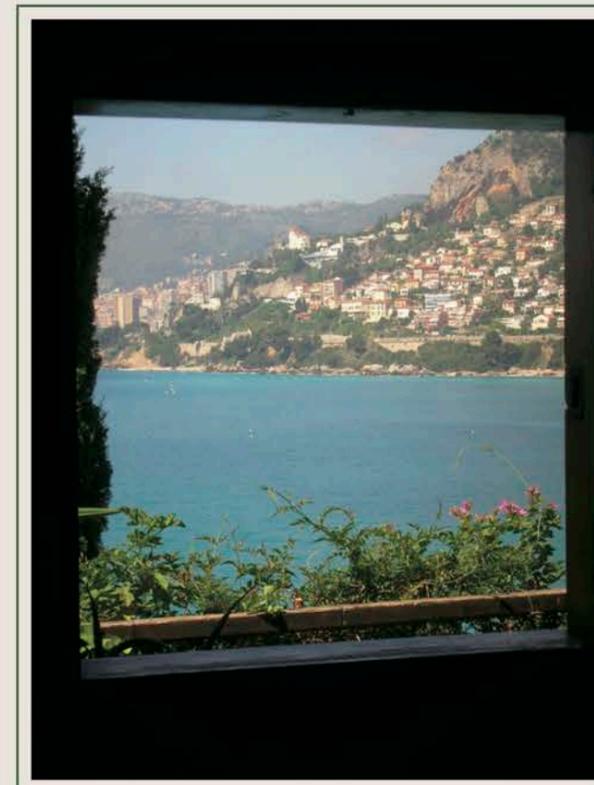
公務員を目指したのは、仕事以外の余暇活動をメインに考えていたため、当初は、仕事を頑張るつもりもなく、いかに早く仕事を終わらせ帰るかに全力を尽くした。たまたま色々な部署で知事のプロジェクト実現に携わる機会が続き、イメージを形にして予算化し、注目されることに公務員としての仕事の魅力を感じるようになった。

## 自分が今までに影響を受けた場所、映画、本は？



赤井 さん

場所：カメラだけ持って一人旅したイタリア  
電車が30分遅れたり、バスが来ないのは当たり前。そのくらいおらかな方が人生楽しいです。あとみんな優しい。  
映画：「モダンタイムス」  
チャーリー・チャップリン  
どんな時代でも生きることはできるし、そこにはきっと幸せがあります。  
本：「ギャラリーフェイク」細野不二彦  
「アートを仕事にする」の理想形。自分はビジネス書はあまり読みません。漫画や小説など想像力を培ってくれるものが好きです。



阿部 さん

場所 ル・コルビュジェのCABANON（カバノン：休暇小屋）  
中に入ってみると一貫した哲学を感じます。自然との対話が根底にあるような。

映画 「暮情」：ラストシーン  
一本の木が立つ丘を見上げた時、泣けてきます。。。

本 『風立ちぬ』（堀辰雄）かな。  
なにか清らかな空気感だけは記憶に残っています

## 仕事をする上で心掛けていること、大事にしていることは？

櫻村さん

しなきゃいけない、ではなく、したい、になるように心掛けています。

崎谷さん

面白く、楽しくするためにはどうしたら良いか常に考えています。論理的に導かれることは多くのひとにとって正しいかもしれませんが面白くはないかもしれません。偶然を必然に、直感を実感に変えていくこと、あくまで面白く、楽しく。

田嶋さん

集合知を信じています。様々な人との協働により、自分だけでは考えられないアプローチや解決策を発見することが多いです。まさにサマスタスタイルで仕事をする。意外に難しいですね。また、公園設計では、不特定多数の利用者を想定しがちですが、「愛するあなた」のために設計することを心掛けています。



赤井さん

仕事は絶対一人ではできません。一緒に働く人もいれば、後工程をやってくれる人、仕事をお願いしてくれる人も関係者です。

そのすべての人が「想い」をもってプロジェクト成功に向かっていくのが私の仕事の理想です。報酬の過少よりも、一緒にやっていて楽しいか、関係者が楽しく取り組んでくれているかを第一に考えています。



阿部さん

私は、緑地計画が専門。プランニングは、長期的な方向性を見据えながら、一つの方向性を描かなくてはなりません。ですから、より多くの方々の共感を得られるようにすることが大切です。表面的な要望の奥底にある「ほんとうの望み」を見つけ出していくことで、案外、同じことを言っていたりすることもあります。

小川さん

・三人の石工の話    ・自分を疑う（自分本位のやり方になっていないか、相手に伝わるか）    ・常識を疑う

山岸さん

あらゆる分野に興味を持ち続けることが大切であると感じています。

自らの業務のことや他の部署のこと、他の地域のこと、そして、仕事以外のことにも興味を持ち、受け入れていくことで、それらが頭の中でめぐり合い、いい仕事に繋がっていく気がします。

石野さん

発信とスピード。ハードルが高くても、こうやればできるというアイデアを打ち続ける。結果、助っ人が現れ、達成できる。「人がラッキーを連れてくる」ので、いろいろなところに顔をだし、たくさんの人とつながり、生かす。スピードは優先順位を明確に仕事を処理し、時間を生み出し多くの機会を得る。でも一番は楽しむかな。



## 自分が今までに影響を受けた場所、映画、本は？



小川さん

場所：宇宙（心に余裕がなくなった時にイメージするようにしています。宇宙の壮大なスケールを思い浮かべると、自分の小さな悩みなどどうでも良く思えてくるので助けられています。）



（一社）奥むさし飯能観光協会 提供

山岸さん

・飯能  
神々しいほどの自然の美しさを感じ取れる、市街地ほど近くの景勝地。飯能市にはこのように、地域の方々に大切に守られてきた場所がたくさんあります。  
・米沢盆地 私にとっての豊かなまちの原風景です。

映画：『バグダッド・カフェ』  
パーシー・アドロン 監督  
映像美と楽曲が素敵です。  
本：『太陽の子』灰谷健次郎 作  
やさしい文章の中に戦争の残酷さが影を落とす印象深い作品です。



石野さん

埼玉スタジアム。  
頼まれたら断らない主義なので中学のPTA会長を快諾。50周年式典を埼玉スタジアムメインスタンドでやろうと提案し、結果、様々な人の協力で成功。今年もコロナ禍で中止になった成人式の代替イベントをオリンピック会場で楽しんじゃおうと新成人と一緒に企画。クラウドファンディングで資金調達してこちらも大成功。

## 今の仕事に興味を持つ学生に向けてメッセージ



櫻村 さん

自分が好きなこと、自分ができないこと、そういうことが少しずつ分かってきてから、つまり大人になってから知り合った尊敬できる人たちとの会話はとても楽しいです。仕事を始めたら一緒に飲みましょう。



崎谷 さん

ものをつくる、ということについて改めて考えてみてください。見えないものを見るものにするということは決して簡単ではありません。独りよがりのエゴやなんとなくという気持ちでは決して続きません。ビリビリとかヒリヒリとか、ものづくりにシビれる感覚が大切です。



田嶋 さん

ランドスケープという言葉には「職能」、「思考」、「生き方」の3つの意味があります。「職能」としてのランドスケープアーキテクトを目指している学生が多いと思いますが、その前に各自の「ランドスケープ的思考」を磨いてほしい。自分的には残りの人生を「ランドスケープ的生き方」に捧げるつもりです。



赤井 さん

まずは一芸に秀でることをおすすめします。仕事以外でもいいので、好きなことをとことん突き詰めていってください。将来どんな仕事をするにしても、それは必ず役に立ってくれます。私のように何も特技がない人間にはなってははいけませんよ。



阿部 さん

いろんなことに興味をもち、(造園以外の)自分の好きなことに没頭でき、ただそれらを自分の軸に意味づけていくことができるといいかもしれません。



小川 さん

特定の分野に興味がある方よりも、あらゆる分野のことに興味を持てる方に向いている仕事だと思います。



山岸 さん

市職員として大切なことの一つに、地域に飛び込んでいく勇気を持つことだと思っています。その勇気をもって仕事に取り組むことができるなら、大変なことも沢山ありますが、充実した日々を送ることができるのではないかと思います。



石野 さん

どこでも仕事を楽しもうと思えば、公務員も民間も変わらない。自分はたまたま公務員という道を選んだだけで、そこでいかに楽しむか、どうやって楽しいことを仕事に取り込んじゃうかということを常に考えて行動している。その上で、県職員というわりと信頼されやすい立場を生かし、多くの方とつながれるというのが利点かと。

# 飯能の魅力

ここでは、対象敷地周辺でフィールドワークを行った参加学生の目線で、飯能のオススメスポットを紹介します！  
飯能の豊かな自然環境、それに呼応する生活・文化を感じられるスポットから、グルメ、何コレ!?と驚いてしまうようなものまで、観光情報サイトなどには載らない、行った人にしかわからないディープな飯能情報がここに！

## グルメ

扇状地に広がる飯能市街地では小麦栽培の歴史が長く、武蔵野うどんが名物になりました。そのほかにも、発酵食品を楽しむことのできるレストラン OH!!! など、飯能のまち中には飯能グルメを味わえるお店がたくさん！



『古久や』のうどん  
コシがあって量もある！コンビニで商品化もされているよう。



『カフェキノカ』  
木こりのフォレスト萩原さんが経営している。そばもお手製。  
『森田製麺所』  
このうどんもおもしろかった。



『OH!!!～発酵、健康、食の魔法!!!～』  
能仁寺の麓にある、発酵食品を楽しめるお洒落なレストラン。インスタ映えもばっちり！アイスも不思議な味の種類がたくさんありました。

## 飯能で暮らす人々と文化

古くから林業・製材業が発達し、木材の集散地として栄えた飯能では、現在でも木の文化とそれを象徴する風景が残ります。街の方々が街中の様々な空間を豊かに使いこなしている姿も印象的でした。また、お話をお聞きした方の中には、飯能への熱い思いを語っていただいた方もたくさんいらっしゃいました。



大河原木材の木材集積所。西川材の加工過程は風景として飯能の街に溶け込んでいる。



株式会社サカモトにて。木材加工文化の新たな可能性が生まれ始めている。



アンティークショップ、REFACTORY。店主の方から飯能への熱い想いが聞けました。



住宅地の道路でボール遊びやバドミントンをしている子供たち、親子を見かけました。道路という歩車の空間を共有していました。



扇状地に広がる飯能。生活の水を運ぶための井戸が等でも街中に見られる。



以前のタバコ屋さんの看板を出したまま、中身は病院。以前の店の記憶が見えて面白い！



道を歩いていたらおじいさん同士が突然空スペースで立ち話。



飯能市中央公園横の静かなで落ち着いたスペース。植栽などを管理するボランティアの方に出会った。このように町のごくに積極的な人が増えたらいいと思った。

## 何コレ!?

飯能を歩いていると、思わず「何コレ!?!」と言いたくなってしまうような風景に出会います。でも、よくよく見てみると、飯能で昔から営まれてきた林業や、飯能の観光資源、人々の暮らしなどと密接に関わっている風景だと気づくことができるのです。



大河原木材脇。10 cmほどのさいころ状の積み木のような木材の切れ端が山のように置かれている。



崖っぷちのカラオケ。川の傍で歌えるのもなかなかいいかも。



おそらく田嶋さんが通われていた中学校の抜け道。ネットをくぐって通り抜けられる。



飯能河原。「マスキミ」？「スミマキ」？何？炭・薪、置いてますと言う意味でした。



中央公園の北側にある鉄腕アトムの像。宝塚市出身の手塚治虫氏の作品がなぜ飯能に？



銀座商店街付近。消火用に設けられていた防火水槽。昔、この場所には銭湯が営まれていたため、今でも名残があり残っている。

## 自然・景色

「森林文化都市」飯能では、市街地の中の小さな沢や、天覧山周辺などに豊かな自然が残されています。住宅街の中にも緑が点在し、生活の中で自然環境を感じられる街になっています。また、飯能市街地を一望できる天覧山のみならず、建物のなかや橋の上も、飯能の景色を眺める良い視点場になります。



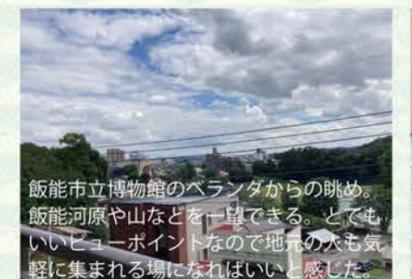
天覧山を目指して…麓から徒歩5分で雑木林へ。地域住民の散歩コースとしても親しまれている静かで癒される森林浴スポット。



両岸の木々が道路を隠れて大自然の中にいるよう。でも実は飯能駅から歩いてこれるので。



山と畑が近く、谷地形では沢があった。畑にはウメ、キウイ、カキ、クリ、ザクロ、ミカンといった果樹やネギ、オクラ、ナス、トマト、カボチャ等の野菜、その他にはお茶等多様な植物が育てられていた。



飯能市立博物館のベランダからの眺め。飯能河原や山などを一望できる。とてもいいビューポイントなので地元の人も気軽に集まれる場になればいいと感じた。



川に流れ込む支流や住宅のすきまの植物。自然が大きな土木を覆ってしまう生命力が印象的でした。

# 学生アンケート

サマースタジオ 2021 に参加した  
全 30 名の学生にアンケートをとりました。

## 01…参加して身についたこと

### プレゼン能力



初めて、先輩も後輩もいるというチーム構成でやってコミュニケーション能力が少し上がった気がします。

自分が考えたことを分かりやすく周りの人に伝えるという点において、何度も悩み、苦労しましたが、ワークショップ期間を経て成長したと感じます。

### デザイン能力



表現のスキルについて、建築・ランドスケープを専攻している他の学生がどのようなものを持つのか知ることで、自分のスキルを客観的に捉えられました。

様々な視点から対象地を調査、分析し、着目する力が身についたと感じます。提案におけるストーリーを組んでいく方法を学ぶことができました。

### 企画力



エスキスを受けて次の作業をどのような手順でやるかなどのスケジューリング、さまざまな分野がいることで話が広がったときにまとめることが難しかった。

短い時間で大学や学年が違う方がいる中で行うコミュニケーションの難しさやマネジメント力やスケジュール管理力の重要性に気づきました。

■ 身についた ■ 普通  
■ 少し身についた ■ 身につかなかった

## 02…感想

- ・初めてサマスタに参加しましたが、**チームで議論しながらデザインしていく過程**を非常に楽しめました。
- ・自分の弱み、よくない部分を知れた他、**一緒にグループの人の良いところをまねてみたいと思えるようなイベント**で参加してよかったです。自分の視野が広がったように感じます。
- ・コロナ禍でグループ活動をするのが難しい中、**普段出会うことのできない異なる専攻、学年の方と一緒に活動し沢山考えて手を動かす**ことができ良かったです。
- ・チームメンバーのバランスが取れていてよかった。**土木、造園、建築と異種交流**ができ、かつ得意分野（パースや模型、コンセプト整理）がみんな違い、作業分担がしやすかった。

## 03…今後に向けて

プレゼンテーション、ワードの選択、判断力を養う必要性を感じた

外の世界を知ったことで自身の知識・技術不足を改めて痛感し、より一層本気で学んでいきたいと感じた

チューターのみなさんと一緒に設計してみたい

デザインの流れを学べたので、今後はアウトプットのスキルを上げていきたいと感じた

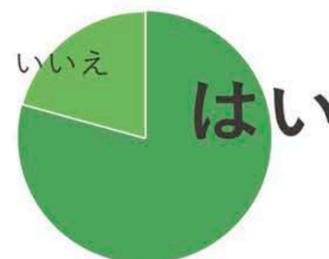
デザインの思考とプレゼンの組み立てをきちんと行い、意見の言える人になりたい

これからの授業や学校での活動に活かしたい

自分の表現方法の少なさを実感したので新たなツールを試してみようと思えた

真剣に考える学生、設計することが好きな学生と繋がれたことが1番の収穫です

## 04…来年、再来年もサマスタに参加しますか？



今回のサマースタジオは大学院生や学部4年生が多い中、来年、再来年も参加したいという声が多く寄せられました。密度が高く、満足度が高いワークショップが開催できたと思います。

# チューターコメント



それぞれがその街・土地で感じたことを、想像上の新しい空間に見事に展開してくれました。とても楽しかったです、ありがとう。

A班 富士榮宏将

個人の長所が活きる素晴らしいチームワークでした。課題抽出からデザインまで、一貫したストーリーを組み立てられました。

A班 坂本幹生

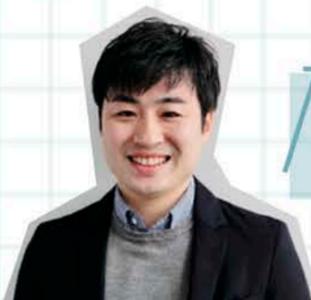


地域の産業から風景をつくりたいという目標を曲げず、お互いの長所を見つけながら楽しく素直に課題と向き合う姿が素晴らしかったです。

D班 大山奈津美

デザインは楽しみながらするのが一番！Dチームは最後まで全員がそれをできていたので素晴らしかったと思います。

D班 鬼塚知夏



最も大切で難しいことは、限られた現地調査で場所固有の魅力や課題を発見し拾い上げることだと思います。A班はそこが抜群でした。

A班 杉山茂樹

検討すること、形にすること、伝えることに奮闘される姿に刺激を受けました。引き続きお互い頑張りましょう！

B班 渡部美香



地道なフィールドワークからデザインにつながる瞬間の爽快感は何物にも代え難いと思います。その感覚をずっと持ち続けてほしいです！

E班 原崎寛明



激烈なメンバー構成にタジタジでした。今後もその個性を失わず、強く、楽しみながら社会の荒波を乗り越えて下さい。(B 小林祐太)

B班 小林祐太

自分をじっくり見つめることができた機会だったでしょう。どの瞬間、自分が一番ワクワクしましたか？その瞬間の自分を信じて、大事に磨いていってください。

E班 小澤亮太



<言われた思い出の一言>

松戸さん：けっこう歳離れてるんですね。王さん：ん？はいできます。樹くん：至らず、申し訳ありません。吉田さん：えっ絶対A型でしょ？原田くん：まずは手本見せてくれませんか？

C班 木滑公人



<みんなへ一言>

松戸さん：いつか一緒に仕事したい。原田くん：異次元の積極性。樹くん：可愛がりたくなる人。王さん：LAとしての資質あり。吉田さん：言葉全てが本音でおもしろい。

C班 井野貴文

複雑に絡み合う課題にまっすぐ向き合っていたのが印象的です。今回出会った問題意識と、今後も長く付き合っていてほしいです。

F班 小粥慶子



現代における都心と飯能の新たな可能性や関係性が発見できたと思います。これからも専門分野の垣根を超えた幅広い視点を大切に。

F班 岸孝



# スケジュール

9/4

9/5

9/11

9/12

9/19

キックオフ  
ミーティング

プレサーベイ期間

中間発表  
@ 飯能

中間発表  
2日目

コアワーキング期間

最終発表

A 班



B 班



C 班



D 班



E 班



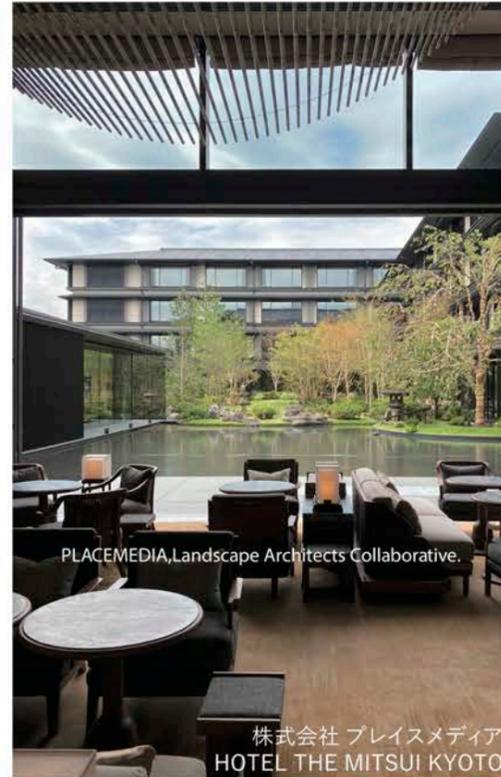
F 班



# Summer Studio 2021 ご協賛企業



studio on site  
横浜市役所 撮影:吉田誠

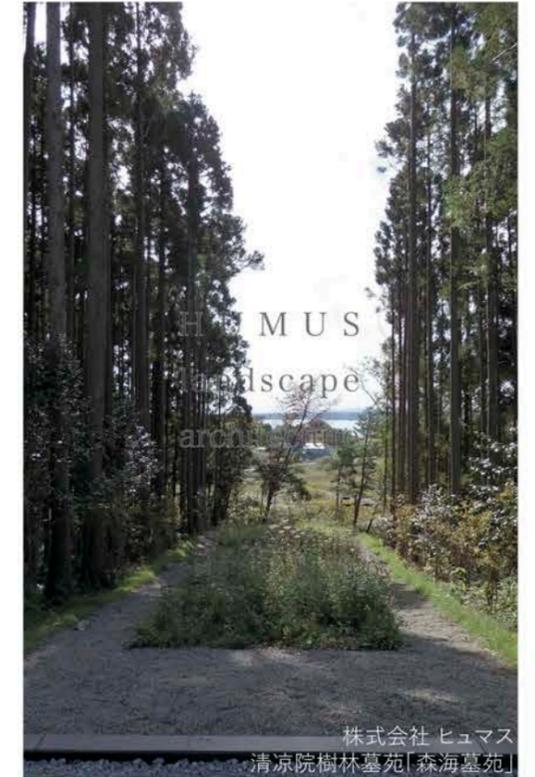


PLACEMEDIA, Landscape Architects Collaborative.

株式会社 ブレイスメディア  
HOTEL THE MITSUI KYOTO



株式会社 戸田芳樹風景計画  
油山平成御廟



HUMUS  
landscape  
architects

株式会社 ヒュマス  
清涼院樹林墓苑| 森海墓苑



株式会社 グラック  
新宿中央公園



VECTORWORKS  
LANDMARK

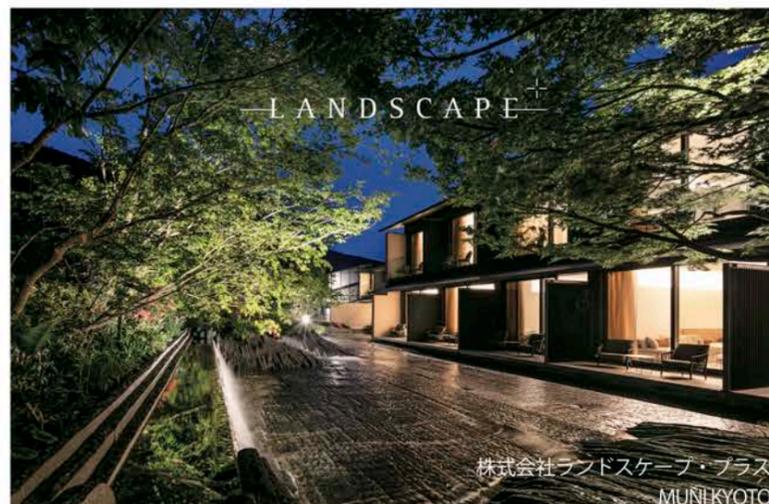
2021  
v

エーアンドエー 株式会社



撮影:© Shingo Nakashima / SS

株式会社 日建設計  
渋谷区立北谷公園

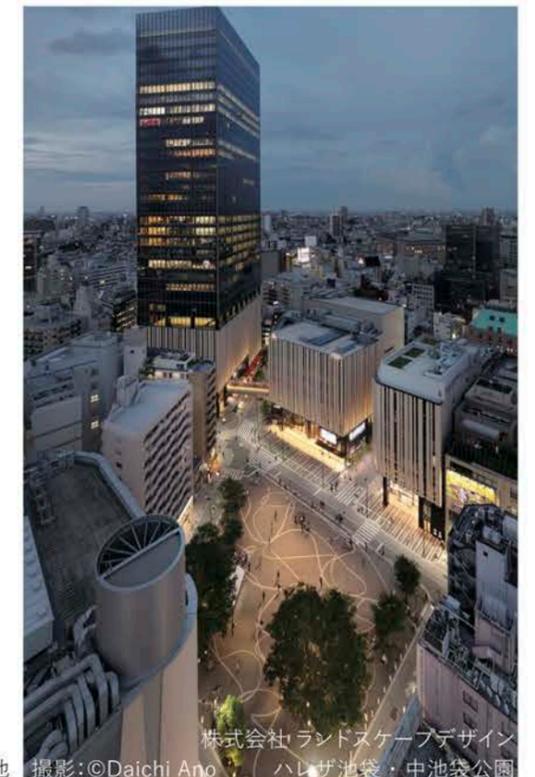


LANDSCAPE

株式会社 ランドスケープ・プラス  
MUNIKYOTO



株式会社 三菱地所設計  
TOKYO TORCH Park/ 鯉池



株式会社 ランドスケープデザイン  
撮影:©Daichi Ano  
ハレザ池袋・中池袋公園

# 2021.10.6 Vectorworks Lecture

## 作品のクオリティ向上のために

Summer Studio 2021 ご協賛企業である エーアンドエー株式会社様より 2021年11月19日～12月18日（日本造園学会関東支部大会）までの期間限定で、希望者への CAD ソフト：Vectorworks の無償利用ライセンスを特別に発行いただきました。

関東支部大会までの作品ブラッシュアップの作業効率向上のため エーアンドエー株式会社より 大嶋悠子様・佐藤和孝様にご参加いただき、オンラインによる操作レクチャーを開催いただきました。

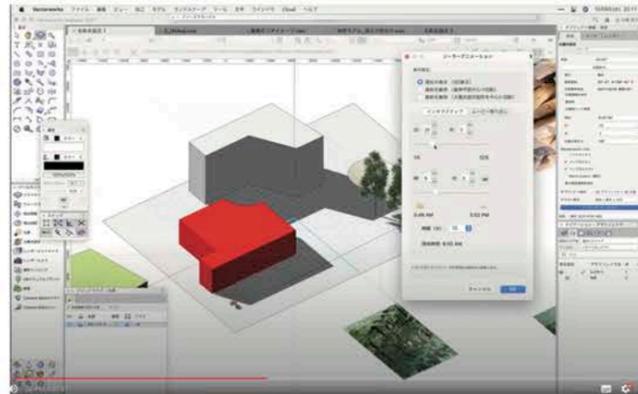
学生からの質問や日頃の実務でのチューターの悩み相談など、活発な議論が繰り広げられ、実り多い勉強会となりました。



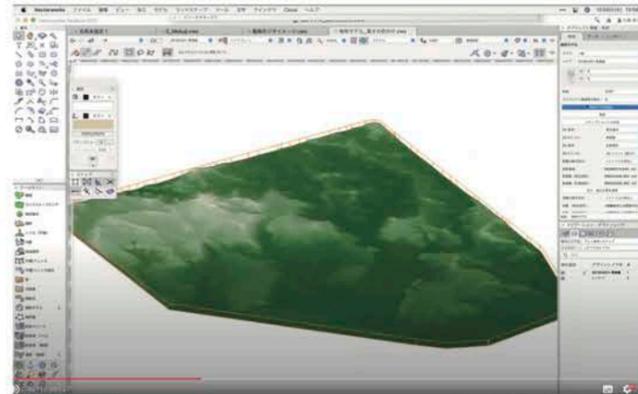
エーアンドエー株式会社 大嶋悠子様

## Vectorworks による作図・シミュレーション・検討方法の紹介

### ■3Dモデル作成によるボリューム・見え方の検証方法



### ■地形モデルの作成方法



### ■検討時のCGと実物を比較した事例紹介



CG検討時のイメージパース



竣工した実際のランドスケープ

## 学生の声



**佐藤 樹**  
千葉大学 修士1年  
実演も交えながら説明していただいたことで、実際の使用のイメージや他のCADソフトとの比較ができ、とても参考になりました。モデリングまで一貫してできてしまう点に特に魅力を感じました。



**田中 晋**  
東京農業大学 修士1年  
色々な種類のソフトがあるので Vectorworks がどんな特徴のあるソフトなのか知りませんでした。使ってみると作図だけでなくモデリングやパネル作成もできてしまい1つのソフトで対応できることに驚きました。



**松戸 香奈枝**  
東京大学 修士1年  
普段は別のソフトを使っているため、レクチャーでのユーザーの生の声はとても貴重で参考になりました。中でも、ランドスケープならではの繊細な図面表現が1つのソフトで完結するのが魅力だと感じました。

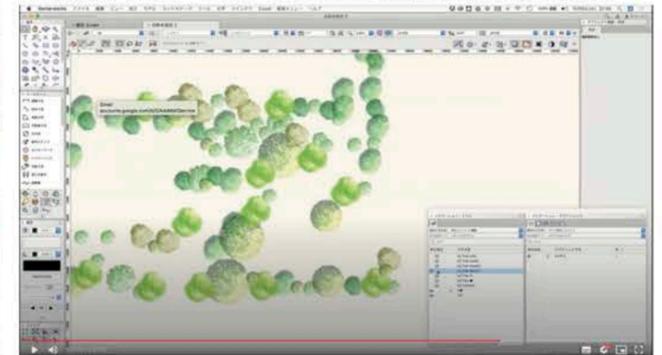
## 多彩な表現方法、実務での使い方を共有

Vectorworksの多彩な表現方法の共有、日頃の実務での悩み相談、あると嬉しい機能の追加要望など、学生だけでなくチューター同士や実務者とソフト開発企業との情報交換も活発におこなわれました。

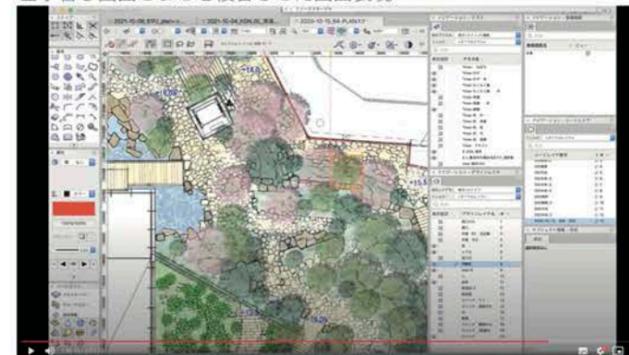
### ■テクスチャーの取り込み



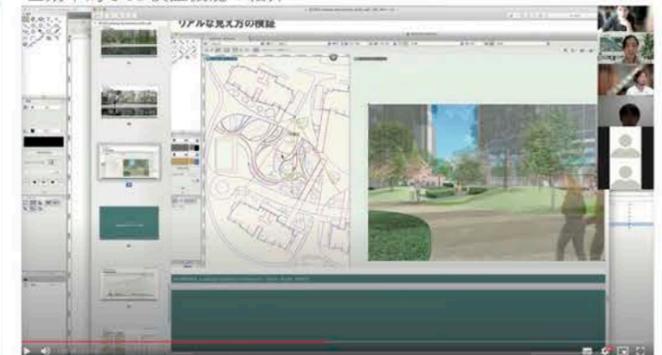
### ■複数のアプリケーションを行き来せず実現できる多彩な植栽表現



### ■手書き図面とCADを複合させた図面表現



### ■効率的な3D検証機能の紹介



## A&Aより 学生にむけて

大嶋悠子  
エーアンドエー株式会社 マーケティング部

今回はじめてサマースタジオに携わらせていただき、学生ならではの着眼点の柔軟性と発表のクオリティの高さに驚きました。今後もCADをデータ作成のツールとして積極的に使っていただきたいと思います。

佐藤和孝  
エーアンドエー株式会社 プロダクトマーケティング マネージャー

ランドスケープデザインに留まらず、社会的、経済的視点を含めた提案だったのに驚きました。さらに、サマースタジオの成果発表から学会発表までの間にブラッシュアップされていたことに、非常に刺激を受けました。ソフトウェアとして、皆さんの柔軟な発想を支援できるものでありたいと思います。



## まとめ本委員会編集後記

### [編集長]

吉田真歩

忙しい中一緒に作業してくれたメンバーの方や、相談に乗ってくださったチューターさんのおかげで、かけがえのない一冊になったと思います。本当にありがとうございました！

### [全体デザイン担当]

下川洋伶

全くもってご協力できず、申し訳なかったです。素敵なまとめ本、皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

水野謙吾

まとめ本の編集を通じて、イラレなどのスキルの向上に加え、他の班の方との交流ができた点が良かったです。ありがとうございました。

山本祐子

どのページも楽しそうで魅力の詰まったまとめ本をみんなで完成させることができたことがとても嬉しいです。ありがとうございました。

### [概要ページ担当]

齋藤浩志郎

夏の短い期間のみにとどまらず、このように成果を毎年きちんとまとめているのはとても素敵だと思いました。ぜひ来年も期待しています。

杉本達宏

飯能の魅力ページで良い写真を提供して下さった皆さん、ありがとうございました。サマスタで得たいろいろな人とのつながりを大切にしていきたいと思います。

### [副編集長]

佐藤樹

あまり役に立てませんでしたが、1つの形にできてよかったです。チューターの皆様、編集長、各担当の皆様、ありがとうございました。

### [総評ページ担当]

塩澤敬祐

これを見た人にサマスタ面白そうと思って頂けたら幸いです。インタビューにご協力頂いた皆様、本当にありがとうございました。

野池優里花

お忙しい中、インタビューにご協力して頂いたみなさま、ありがとうございました。様々な方と関わることができ、良い時間を過ごすことができました。

三浦樹

インタビューにお答えいただいたゲストの皆様、ありがとうございました。サマスタの活動を通して多くの刺激を受けることができ、貴重な時間を過ごすことができました。

### [活動記録ページ担当]

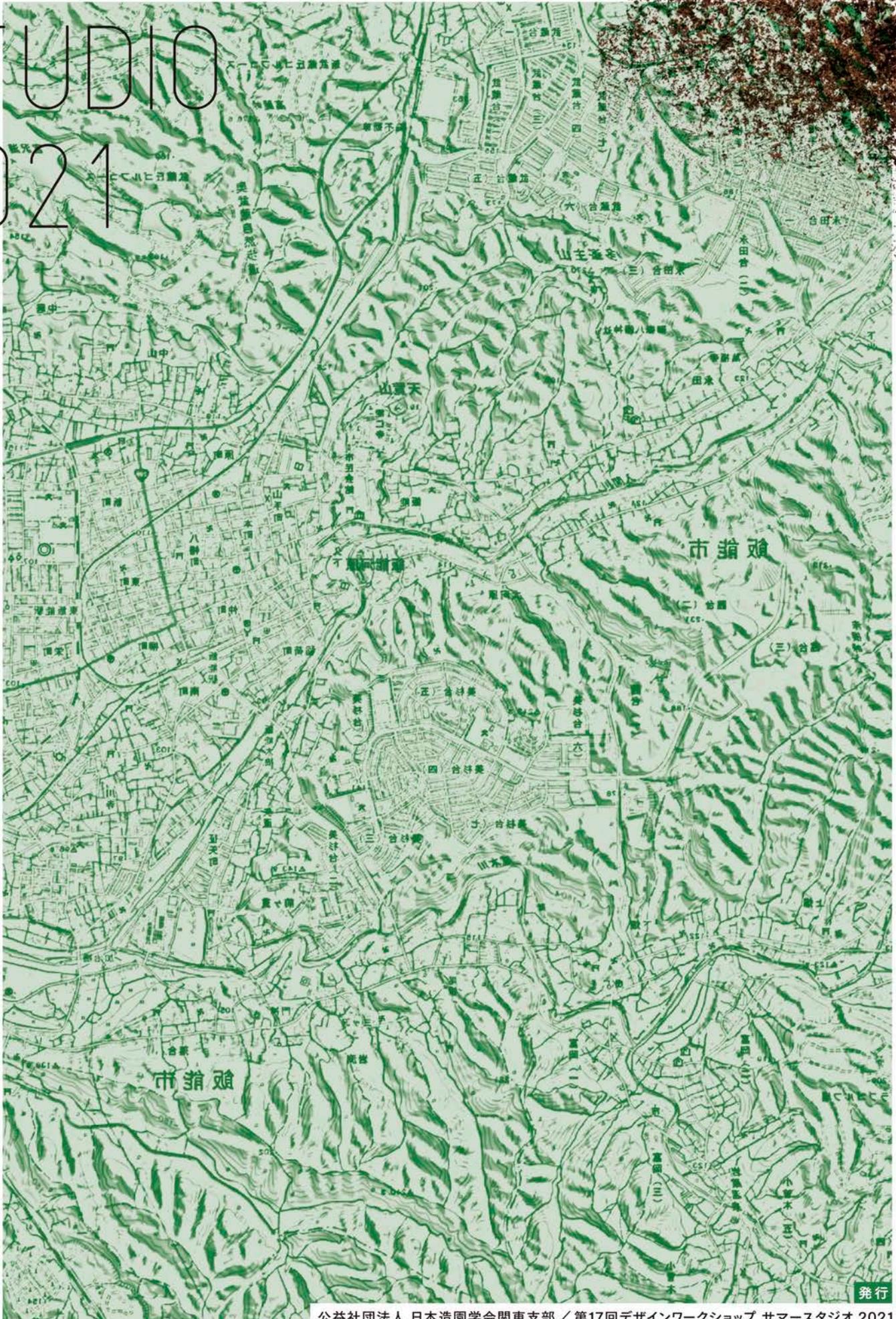
河地美佳

まとめ本の活動を通じて新しい関わりを持つことができ、サマスタでの活動がよりよい経験として残すことができうれしく思います。

戸谷祐登

サマスタ期間中には見えなかった他班の様子を写真を通じて楽しく知ることができました。このまとめ本を見た方にサマスタの魅力が伝わることを願っています。

# SUMMER STUDIO 2021



発行